富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第20集

能越自動車道関連
埋蔵文化財包蔵地調査報告

ＮＥＪ－15
（惣領野際遺跡）
ＮＥＪ－16
（惣領浦之前遺跡）
ＮＥＪ－17
ＮＥＪ－18
正保寺遺跡
粟原Ａ遺跡
中谷内遺跡
中尾横穴墓群
中尾茅戸遺跡

2003年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道(一般国道470号)は、富山県西部と石川県能登半島地域の高速交通体系の確立や沿線地域の活性化を目指し、北陸自動車道小矢部砺波ＪＣＴから高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所では、この能越自動車道建設計画に伴い、平成４年度から発掘調査・遺物整理の事業を実施しております。発掘調査事業は、今年度までに五社遺跡・開蕚大滝遺跡(小矢部市)・石名田木舟遺跡(小矢部市・福岡町)・地崎遺跡(小矢部市)・簑島遺跡・江尻遺跡(福岡町)・下老子笹川遺跡(福岡町・高岡市)・近世北陸道遺跡・手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡・堂前遺跡(高岡市)・中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡(氷見市)の発掘を終了しました。

本書は、能越自動車道高岡北ＩＣ～氷見ＩＣ間に所在するＮＥＪ－15・ＮＥＪ－16(氷見市惣領)・ＮＥＪ－17(氷見市矢田部)・ＮＥＪ－18(氷見市上久津呂)の埋蔵文化財包蔵地及び、正保寺遺跡(氷見市飯久保)・粟原Ａ遺跡(氷見市粟原)・中谷内遺跡(氷見市中谷内)・中尾横穴墓群・中尾茅戸遺跡(氷見市中尾)における遺跡の範囲や、遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。その結果、路線内で、古墳時代・中世の惣領野際遺跡(ＮＥＪ－15)、縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世の惣領浦之前遺跡(ＮＥＪ－16)、古代・中世の正保寺遺跡、古代の粟原Ａ遺跡、縄文時代・古墳時代・古代・中世の中谷内遺跡の一部を確認しました。調査の成果が、今後の遺跡調査や研究等の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり、格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成15年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所　長　桃野　真晃

例　　言

1　本書は平成14年度に氷見市飯久保・惣領・矢田部・上久津呂・粟原・中谷内・中尾地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の調査報告書である。

2　調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が国土交通省からの委託を受けて実施した。

3　調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査第二課長　酒井重洋が総括した。調査期間と調査員は次のとおりである。

ＮＥＪ－15（平成14年５月27日～５月31日）
　調査員　主任　越前慎子、文化財保護主事　野口雅美・長瀬　出・田中昌樹

ＮＥＪ－16（平成14年６月３日～６月６日）
　調査員　主任　越前慎子、文化財保護主事　野口雅美・長瀬　出・田中昌樹

ＮＥＪ－17（平成14年７月17日～７月18日・９月24日～９月26日）
　調査員　主任　越前慎子、文化財保護主事　野口雅美・長瀬　出・田中昌樹

ＮＥＪ－18（平成14年６月18日～６月20日・10月30日～11月１日）
　調査員　文化財保護主事　町田賢一・長瀬　出

正保寺遺跡（平成14年９月30日～10月25日）
　調査員　文化財保護主事　長瀬　出

粟原Ａ遺跡（平成14年６月25日～６月28日）
　調査員　文化財保護主事　長瀬　出

中谷内遺跡（平成14年６月６日～６月18日・11月25日～12月３日）
　調査員　主任　越前慎子、文化財保護主事　町田賢一・野口雅美・長瀬　出・田中昌樹

中尾横穴墓群（平成14年６月19日～７月５日）
　調査員　主任　越前慎子、文化財保護主事　長瀬　出

中尾茅戸遺跡（平成14年11月19日～11月20日）
　調査員　文化財保護主事　長瀬　出

4　発掘調査・資料整理・本書の作成にあたっては、下記の方々から御教示を頂いた。記して深甚なる謝意を表したい。（敬称略・五十音順）

安念幹倫・大野　究・高橋浩二・廣瀬直樹・山本正敏

5　本書の編集・執筆は全般を越前・長瀬が担当し、自然化学分析執筆は植木真吾（パリノ・サーヴェイ株式会社）が行った。執筆分担については各文末に記した。

6　実測及びトレースは越前・野口・長瀬・田中が行った。

7　遺物の写真撮影は、調査第一課長　狩野　睦が行った。

8　貝類の同定はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、報文を得た。

9　出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

10　トレンチ一覧表には各層から出土した遺物の略号を記し、土層自体を検出していない場合は－で示した。出土遺物の略号は次のとおりである。

縄土＝縄文土器　**墳土**＝古墳時代の土師器　**土師**＝古代以前の土師器　**須恵**＝須恵器
中土＝中世土師器　**土質**＝土師質土器　**越瀬**＝越中瀬戸　**伊万**＝伊万里　**陶器**＝産地不明陶器

目　　次

序

例言

目次

Ⅰ　位置と環境 …… 1
1　位置と地形 …… 1
2　周辺の遺跡 …… 1

Ⅱ　調査の経緯 …… 3

Ⅲ　調査の概要 …… 4
1　ＮＥＪ－15（惣領野際遺跡） …… 4
2　ＮＥＪ－16（惣領浦之前遺跡） …… 7
3　ＮＥＪ－17 …… 10
4　ＮＥＪ－18 …… 13
5　正保寺遺跡 …… 15
6　粟原Ａ遺跡 …… 19
7　中谷内遺跡 …… 21
8　中尾横穴墓群 …… 27
9　中尾茅戸遺跡 …… 28

Ⅳ　自然科学分析 …… 30
ＮＥＪ－17埋蔵文化財包蔵地貝類の同定 …… 30

Ⅴ　小括 …… 33

引用・参考文献 …… 35

図・表目次

第１図　調査地の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　能越自動車道路線内の
　　埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡 ・・・・ 2
第１表　既往の調査一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第２表　ＮＥＪ－15トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・ 4
第３図　ＮＥＪ－15トレンチ位置図 ・・・・・・・・ 5
第４図　ＮＥＪ－15出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 6
第３表　ＮＥＪ－16トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・ 7
第５図　ＮＥＪ－16トレンチ位置図 ・・・・・・・・ 8
第６図　ＮＥＪ－16出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 9
第４表　ＮＥＪ－17トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・10
第７図　ＮＥＪ－17出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・10
第８図　ＮＥＪ－17トレンチ位置図（１）・・・・11
第９図　ＮＥＪ－17トレンチ位置図（２）・・・・12
第５表　ＮＥＪ－18トレンチ一覧
第10図　ＮＥＪ－18トレンチ位置図 ・・・・・・・・14
第６表　正保寺遺跡トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・15
第11図　正保寺遺跡トレンチ位置図（１）・・・・16
第12図　正保寺遺跡トレンチ位置図（２）・・・・17
第13図　正保寺遺跡出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・18
第14図　粟原A遺跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・19
第７表　粟原Ａ遺跡トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・19
第15図　粟原Ａ遺跡トレンチ位置図 ・・・・・・・・20
第８表　中谷内遺跡トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・22
第16図　中谷内遺跡トレンチ位置図（１）・・・・23
第17図　中谷内遺跡トレンチ位置図（２）・・・・24
第18図　中谷内遺跡トレンチ位置図（３）・・・・25
第19図　中谷内遺跡出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・26
第20図　中尾横穴墓トレンチ位置図 ・・・・・・・・27
第９表　中尾横穴墓トレンチ一覧 ・・・・・・・・・・27
第10表　中尾茅戸遺跡トレンチ一覧 ・・・・・・・・28
第21図　中尾茅戸遺跡トレンチ位置図 ・・・・・・29
第11表　ＮＥＪ－17
　　検出貝類の分類群一覧 ・・・・・・・・・・・・30
第12表　ＮＥＪ－17貝類同定結果 ・・・・・・・・・・31
第22図　今回の調査により
　　新たに確認された遺跡の位置 ・・・・・・34

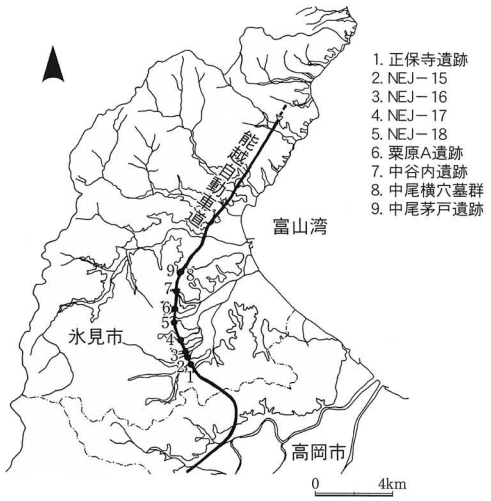
写真図版

図版１　NEJ-15･16･17･18・正保寺遺跡航空写真 ・・・・36
図版２　NEJ-15･16･17･18・正保寺遺跡航空写真 ・・・・37
図版３　粟原Ａ遺跡・中谷内遺跡航空写真 ・・・・38
図版４　中尾横穴墓群・中尾茅戸遺跡航空写真 ・・・・39
図版５　ＮＥＪ－15 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
図版６　ＮＥＪ－15出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・41
図版７　ＮＥＪ－16 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
図版８　ＮＥＪ－16出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・43
図版９　ＮＥＪ－17・18 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
図版10　正保寺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
図版11　粟原Ａ遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
図版12　中谷内遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
図版13　中谷内遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
図版14　中谷内遺跡出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・49
図版15　中尾横穴墓群・中尾茅戸遺跡隣接地 ・・50

Ⅰ　位置と環境

1　位置と地形（第１図）

氷見市は、富山県北西部に位置し、三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上丘陵に囲まれ、東は富山湾に面している。宝達・二上の両丘陵から派出した小丘陵が谷間に小沖積平野をつくっており、能越自動車道建設予定地は丘陵と小沖積平野を南北に縦断して走っている。



第１図　調査地の位置

今年度包蔵地確認調査を行った飯久保地内の正保寺遺跡、惣領地内のＮＥＪ－15･16、矢田部地内のＮＥＪ－17、上久津呂地内のＮＥＪ－18、粟原地内の粟原Ａ遺跡、中谷内地内の中谷内遺跡は、仏生寺川とその支流である万尾川と中谷内川によって開析された十三谷平野と、平野に向かって舌状にのびる丘陵上に点在する。中尾地内の中尾横穴墓・中尾茅戸遺跡は、上庄川流域に開けた上庄谷平野南縁の丘陵裾部に所在する。

2　周辺の遺跡（第２図）

調査対象地周辺は、丘陵と平野が入り組んだ地形となっており、平野部は集落跡を主体とし、丘陵上には古墳群や中世の山城跡が多くみられる。

正保寺遺跡・ＮＥＪ－15・16の周辺には、平野部に惣領古墳、丘陵上に光西寺古墳群・寺飯久保古墳群があり、古墳時代から古代の遺跡として惣領遺跡・惣領Ｂ遺跡がある。中世には正保寺遺跡に隣接して、狩野中務が築いたと伝えられる飯久保城跡がある。山麓の飯久保の集落は「城の下」と称し、「鍛冶屋町」の地名が残る。「越中志徴」によると、狩野氏は戦国期には鞍骨山城、飯久保城、惣領砦を構え、一帯を領したとされる。その他に神代城跡、堀田城跡等の山城が丘陵の尾根に密集している。飯久保後山遺跡は、縄文・弥生時代の散布地で、近世の塚もある。

ＮＥＪ－17が所在する矢田部地区周辺では、丘陵裾に中世の散布地である矢田部六反坪遺跡・矢田部ナカタ遺跡等がある。

ＮＥＪ－18・19・粟原Ａ遺跡周辺には、古くは縄文・古墳時代の散布地である上久津呂ゴダンダ山遺跡がある。古墳から古代の遺跡としては、平野部に上久津呂Ａ・Ｂ遺跡等があり、中世には丘陵上の上久津呂城跡や、丘陵裾に上久津呂Ｃ遺跡の中世墓等がある。

粟原Ａ遺跡から小丘陵を隔てた北側には、中谷内遺跡が丘陵裾部から平野部にかけて広がっており、さらに北側の丘陵を越えた裾部に中尾茅戸遺跡・中尾横穴墓（推定地）がある。周辺には、縄文時代の遺跡として丘陵上に荒館Ｂ遺跡、平野部に大野沢遺跡がある。弥生時代の遺跡としては丘陵裾部に鞍川横羽毛遺跡、平野部に沖布Ａ遺跡、谷部に坂津Ｂ遺跡があり、古墳時代には合計37基の古墳が群集する泉古墳群・泉往易古墳群がある。古代には、平野部に大野南遺跡・泉中尾廃寺等があり、丘陵上には炭焼窯状遺構のある中尾山田遺跡がある。また、大野周辺は「和名抄」にみえる射水郡の十郷のひとつ、阿努郷に比定される。平安時代中期には源家賢が私領阿努庄とし、12世紀中頃に摂関家近衛家領として伝領された。中世には、千久里山上に鎌倉・室町時代の千久里城跡や、山中に祭祀遺跡である千久里岩屋堂遺跡、大量の埋納銭が出土した中尾ガメ山遺跡等がある。

第２図　能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡（１：50,000）

1. 惣領古墳　2. 光西寺古墳群　3. 寺飯久保古墳群　4. 惣領遺跡　5. 惣領B遺跡　6. 飯久保城跡　7. 惣領砦　8. 神代城跡
9. 堀田城跡　10. 矢田部六反坪遺跡　11. 矢田部ナカタ遺跡　12. 上久津呂ゴダンダ山遺跡　13. 上久津呂A遺跡
14. 上久津呂B遺跡　15. 久津呂城跡　16. 上久津呂C遺跡　17. 荒館B遺跡　18. 大野沢遺跡　19. 鞍川横羽毛遺跡
20. 沖布B遺跡　21. 坂津B遺跡　22. 泉古墳群　23. 泉往易古墳群　24. 大野南遺跡　25. 泉中尾廃寺跡　26. 中尾山田遺跡
27. 千久里山城　28. 千久里岩屋堂遺跡　29. 中尾ガメ山遺跡

Ⅱ　調査の経緯

1　調査の契機と既往の調査（第１表）

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部・能登地域の高速交通体系の確立及び地域活性化のため昭和62年の高規格幹線道路計画の一環として、石川県輪島市から富山県砺波市に至る延長約100kmの自動車専用道路として計画された。平成２年にこの工事計画を受け、国土交通省（以下、国土省）富山工事事務所・県教育委員会（以下、県教委）・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定した。また、平成４年度からは当財団が国土省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越自動車道関連の調査は、分布調査を県教委、確認調査を地元市教育委員会及び当財団、本調査を当財団が主体となり平成４年度から継続して実施している。

2　調査に至るまで

平成12年３月、県教委により能越自動車道高岡ＩＣ～氷見ＩＣ間（氷見高岡道路）の分布調査が実施された。その結果、ＮＥＪ－13・14・15・16・17・18・19・20・21の９箇所の埋蔵文化財包蔵地と１箇所の埋蔵文化財包蔵推定地を新たに確認するとともに、板屋谷内Ｂ古墳群、板屋谷内Ｃ古墳群、中尾横穴墓群、中尾坊田遺跡、中尾新保谷内遺跡、飯久保城跡、正保寺遺跡、中谷内遺跡、粟原Ａ遺跡の９箇所の周知の遺跡範囲を再確認した。

平成13年度、国土省の委託を受けて、当財団はＮＥＪ－13・14・20・21、中尾新保谷内遺跡・中尾坊田遺跡の調査を行った。その結果、五十里沼田遺跡・堂前遺跡・神明北遺跡・大野江淵遺跡を新たに確認するとともに、中尾新保谷内遺跡（中尾坊田遺跡は中尾新保谷内遺跡に統合）の範囲を確認した。

平成14年４月19日、富山工事事務所において、国土省と財団の協議が行われ、昨年度より要望のあった高岡北ＩＣ～氷見ＩＣ間のＮＥＪ－15・16・17・18・19埋蔵文化財包蔵地、板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群、正保寺遺跡、粟原Ａ遺跡、中谷内遺跡、中尾横穴墓、中尾茅戸遺跡隣接地のうち、用地買収が終了しているＮＥＪ－15・16・17（うち平野の一部）・18（うち平野部）、粟原Ａ遺跡（うち山地部）、中谷内遺跡、中尾横穴墓群の包蔵地確認調査を早期に実施してほしいとの要望があった。これを受けて財団は５月27日から７月18日にかけて包蔵地確認調査を行った。

平成14年９月９日、県庁において、県教委、国土省、財団の協議が行われ、ボックス工事にかかるＮＥＪ－18（うち山地部）、トンネル坑口にあたる正保寺遺跡のほか、買収の終了したＮＥＪ－17（平野部の残り）、中谷内遺跡（北側拡張部分）、中尾茅戸遺跡隣接地の包蔵地確認調査を今年度中に終了してほしいとの要望があった。これを受けて財団は９月24日から12月３日にかけて包蔵地確認調査を行った。

年度	調査対象地	調査種類	調査主体	調査面積(㎡)	調査期間	調査結果
平成12	高岡北ＩＣ～氷見ＩＣ	分布	県教委	630,000	3/22～3/29	ＮＥＪ－15～21・埋蔵文化財包蔵推定地を設定 板屋谷内Ｂ・Ｃ古墳群・中尾横穴墓群・中尾坊田遺跡・ 中尾新保谷内遺跡・飯久保城跡・正保寺遺跡・中谷内遺跡・ 粟原Ａ遺跡を確認
	岩坪岡田島遺跡	本発掘	財団	8,002（延17,514）	5/22～12/19	古代・中世の集落を調査
平成13	岩坪岡田島遺跡	本発掘	財団	10,839（延12,435）	5/22～11/30	縄文時代前期の川、古代・中世の集落を調査
	ＮＥＪ－13	包蔵地確認調査	財団	189（対象14,570）	5/16～5/17	五十里沼田遺跡を設定
	ＮＥＪ－14	包蔵地確認調査	財団	90（対象3,700）	7/30～7/31	堂前遺跡を設定
	ＮＥＪ－20	包蔵地確認調査	財団	882（対象18,100）	10/25～10/29	中尾茅戸遺跡を設定
	ＮＥＪ－21	包蔵地確認調査	財団	4,194（対象99,710）	10/9～10/29	神明北遺跡・大野江淵遺跡を設定
	堂前遺跡	本発掘	財団	834（延1,668）	10/22～12/11	縄文時代中期～後期の谷、古代の集落を調査
平成14	神明北	本発掘	財団	3,120	7/3～9/25	古代・中世の集落を調査
	中尾新保谷内	本発掘	財団	9.377（延13,077）		古墳・古代・中世の集落を調査
	中尾茅戸遺跡	本発掘	財団	1,236		古代の集落を調査

第１表　既往の調査一覧

＊平成11年度以前の調査については、財団法人富山県文化振興財団1998・2001「能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告」を参照されたい。

Ⅲ　調査の概要

1　ＮＥＪ－15埋蔵文化財包蔵地（惣領野際遺跡）

(1)　調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－15は、仏生寺川によって開析された十三谷とよばれる谷底平野に位置し、仏生寺川の支流である鞍骨川を挟んで北はＮＥＪ－16埋蔵文化財包蔵地となっている。現況は、水田である。標高は北端で約7.8m、南端で約8.4mを測り、南の丘陵に向かって緩やかに高くなっている。

(2)　調査の方法（第３図）

幅約1.65m・長さ約20～50mのトレンチ（以下Ｔとする）を15箇所設定し、重機により掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は16,950m²、調査面積は1,064m²である。

遺跡の範囲は、調査の進展に伴って、当初埋蔵文化財包蔵地と推定されていた範囲を超えて南へのびることが予想されたため、南方へ向かって調査範囲を拡張した。

(3)　基本層序

Ⅰａ層	現耕作土	黄灰色シルト（Ⅰｂ層と合わせて約50cm）
Ⅰｂ層	盛土	灰色粘土
Ⅱ　層	中世包含層	白色粘土混灰色粘土質シルト（約20cm）
Ⅲ　層	中世遺構面・古墳包含層	灰色粘土（約30cm）
Ⅳ　層	古墳遺構面	灰色粘土

(4)　調査の状況（第２表、第３図、図版５）

第１遺構面（Ⅲ層）では、中世の遺構（柱穴・溝・土坑）を検出した。遺構、遺物ともにＴ８～11に集中しており、その付近に主体があると考えられる。

第２遺構面（Ⅳ層）では、古墳時代の遺構（竪穴住居？・溝・土坑）を検出した。数としては少ないが、これは第１遺構面で遺構を検出した部分では深掘りを行っていないことにもよる。６Ｔの西端では遺構埋土と考えられる層から古墳時代の土師器が大量に出土しており、平面形は確認していないが竪穴住居の可能性がある。第２遺構面の地表からの深さはＴ１で約1.6m、Ｔ３・６で約１m、Ｔ12で約0.8mと、南方に向かうにつれやや高くなっていくようである。

地震痕跡として噴砂も検出されている。少数であるため具体的な地震年代は明らかにできないが、確認した噴砂は中世遺構面まで上がり、中世包含層を突き抜けるものはない。また、溝等の遺構の埋土が地震のために乱され、平面形が歪んだと考えられるものがＴ９付近で多く見られた。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
Ｔ１	50	1.6(Ⅳ層)	土師、越瀬、伊万	須恵			穴２・溝２
Ｔ２	50	0.6(Ⅳ層)	珠洲		土師		穴３・溝２
Ｔ３	50	1.0(Ⅳ層)	珠洲・越瀬・陶器	土師	墳土		穴４
Ｔ４	50	1.0(Ⅳ層)	須恵・土師				溝１
Ｔ５	50	0.7(Ⅲ層)	須恵・土師・伊万	土師		－	穴２・溝１
Ｔ６	50	0.8(Ⅳ層)	珠洲・青磁・越瀬				竪穴住居？(古墳土)
Ｔ７	50	1.0(Ⅳ層)		珠洲			穴１・噴砂
Ｔ８	50	0.8(Ⅳ層)		土師・珠洲	珠洲		溝？１
Ｔ９	50	0.9(Ⅳ層)	須恵・珠洲・青磁・伊万里				穴11・溝４
Ｔ10	50	0.6(Ⅲ層)	珠洲・白磁・伊万・唐津・砥石・銭	珠洲・青磁・鉄滓		－	穴９・溝３
Ｔ11	35	0.9(Ⅳ層)		珠洲	土師		穴４
Ｔ12	35	0.8(Ⅳ層)	須恵・土師・中土		瀬戸		穴１・溝１
Ｔ13	30	－				－	
Ｔ14	25	－	須恵・土師	－	－	－	
Ｔ15	20	－	－	－	－	－	

第２表　ＮＥＪ-15トレンチ一覧

第３図　ＮＥＪ-15トレンチ位置図（１：1,000）

(5)　出土遺物（第４図、図版６）

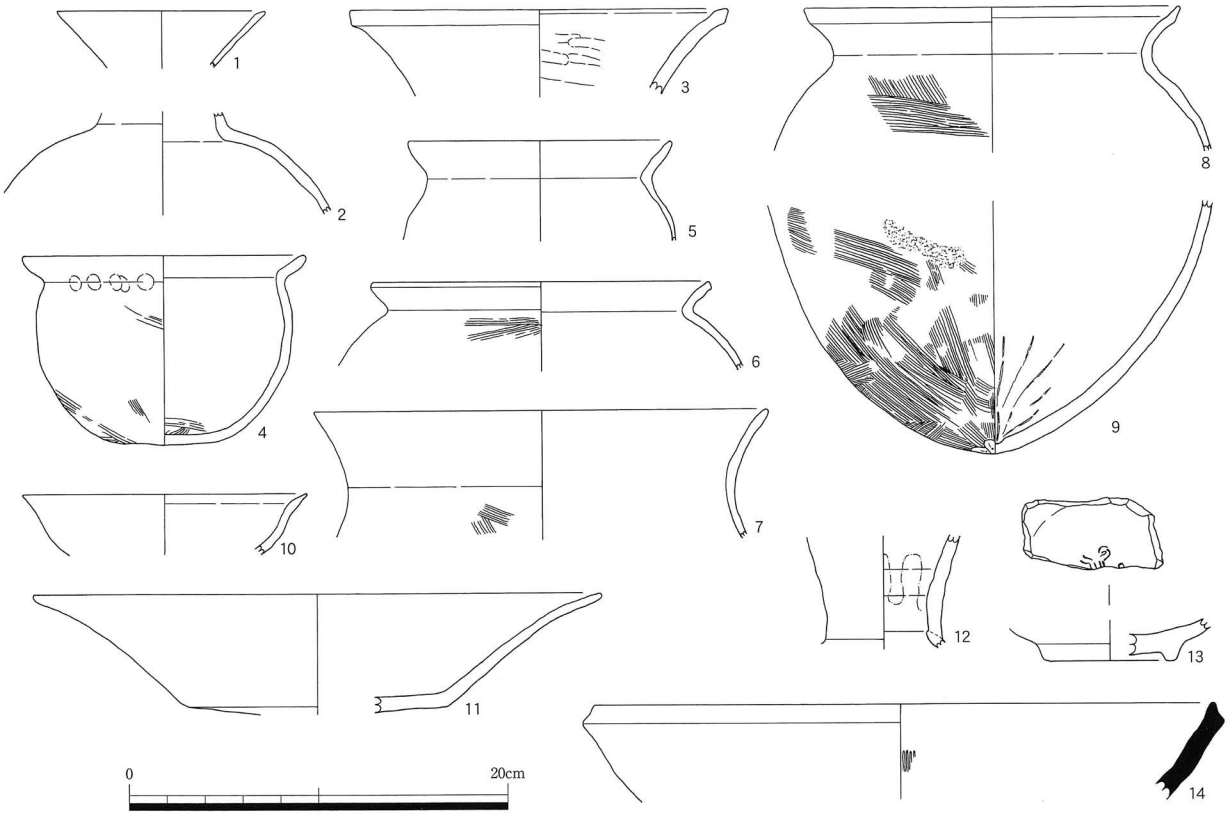
遺物は、土師器（古墳時代）、土師器（古代）・須恵器、中世土師器・珠洲・青磁・瀬戸、伊万里・唐津・越中瀬戸、銭（近世）、砥石、鉄滓が出土した。

１～11は古墳時代の土師器である。１～４は壺である。１は小型の壺で口縁は外方へ開く。２は球胴の壺の肩部で摩滅が著しい。３は大型の壺の口頸部で、端部外面に面をとり、内面はミガキを施す。４はややつぶれた球胴の壺で、頸部外面に指頭圧痕、体部内外面にハケメが残る。５～９は甕で、「く」の字状口縁を呈する。７は頸部がゆるくくびれる形態で、外面はハケメを施し、煤が付着する。10は椀で口縁部は外反する。11は高坏の坏部で、外反し下端に稜をもつ。12は瀬戸壺の頸部である。外面には灰釉がかかる。13は中国製青磁の碗である。内面及び外面の高台部分まで釉がかかり、見込みには型押し文を施す。14世紀頃のものである。14は、珠洲擂鉢である。口縁部は上部につまみ上げる。13世紀前半頃のものである。

(6)　調査の結果（第３図）

第１遺構面では中世、第２遺構面では古墳時代の遺構が検出された。なお当初の調査予定範囲より南方に遺跡の延長が認められ、遺跡の範囲を拡張した。本調査対象面積は、14,200㎡で、２面あるため延べ面積は28,400㎡である。遺跡の名称は付近の字名から惣領野際遺跡とした。

当遺跡の近辺には、周濠をもつ２基の円墳と推定されている惣領コツデラ古墳群、仏生寺川の改修工事で地表下約３ｍから古墳時代中期の遺物が出土した惣領遺跡、埋葬主体部礫床及び直刀・管玉・ガラス小玉・須恵器を検出し６世紀後半以降の築造とされる惣領古墳群など古墳時代の遺跡が多い。また、今回の調査で、隣接するＮＥＪ－16では当遺跡よりやや時期が遡る弥生時代終末～古墳時代前半の遺構面を確認した。今後、これらの遺跡調査によって仏生寺川上～中流域の丘陵先端部から平野部における開発過程の解明がなされるであろう。



第４図　ＮＥＪ-15出土遺物（１：４）
T3（10）　T6（1～9・11）　T8（14）　T9（13）　T12（12）

2　ＮＥＪ－16埋蔵文化財包蔵地（惣領浦之前遺跡）

(1)　調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－16は、仏生寺川によって開析された十三谷とよばれる谷底平野に位置し、南は仏生寺川の支流である鞍骨川を挟んでＮＥＪ－15埋蔵文化財包蔵地となっている。北側は石動丘陵から派出した小丘陵に接している。現況は田地である。標高はＴ４が最も高く約8.4mを測り、Ｔ１では約7.5mと、山側から平野側にかけて約１mの高低差がある。T10では約7.6mで、東方へ向かっても低くなっている。

(2)　調査の方法（第５図）

幅約1.65m・長さ約35～70mのトレンチを10箇所設定し、重機により掘削を行い、人力で遺構面及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は10,200m²、調査面積は767m²である。

(3)　基本層序

Ⅰａ層		表土	黄灰色シルト
Ⅰｂ層		盛土	灰色粘土質シルト
Ⅰｃ層		旧河川埋土	灰オリーブ色粘土質シルト
Ⅱ　層		古代・中世包含層	灰色粘土質シルト（０cm～約40cm）
Ⅲ　層		古代・中世遺構面、古墳・縄文包含層	オリーブ灰色粘土質シルト（約30cm）
Ⅳ　層	T３	縄文遺構面	にぶい黄褐色粘土
	T４・９	古墳遺構面	灰色粘土質シルト

Ⅱ層はＴ２では約40cmの厚さがあるが、Ｔ３～８では15～30cmで、Ｔ６・９・10では削平を受けて残っていない。Ⅲ層はＴ３・４・９で、30cm前後の厚さを確認している。

Ｔ１では、鞍骨川の河川改修を行った際の埋土と思われる層が1.6m以上堆積しており、県道以南に遺跡の広がりは認められなかった。調査区中央には東西方向の旧河川埋土と考えられる層（Ｉｃ層）が表土下で検出された。この埋土は深いところでは2.4m以上あり、遺構面は削り取られている。

(4)　調査の状況（第３表、第５図、図版７）

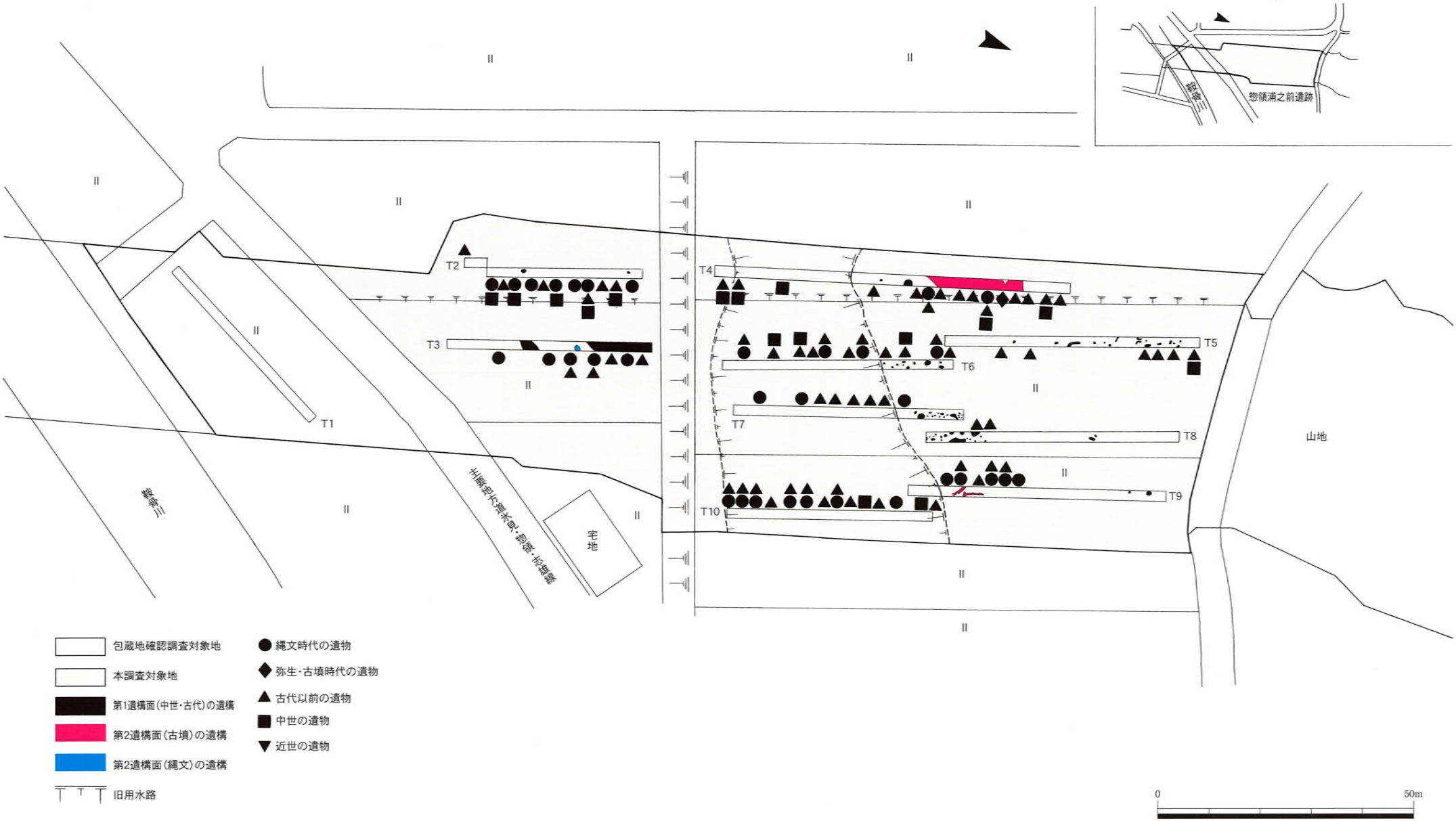
第１遺構面（Ⅲ層）では、古代と中世の遺構（柱穴・溝・土坑）を検出した。特に旧河川より北側の山裾部分に遺構が集中していた。

第２遺構面（Ⅳ層）では、平野側のＴ３で縄文時代の遺構（土坑）、山側のＴ４・９で古墳時代の遺構（溝・土坑）を検出した。縄文時代の遺構はＴ３で土坑を１基確認しただけであるが、Ｔ２・３の包含層から縄文土器の破片が多く出土している。詳細時期を決定できる破片はほとんどないが、中期中葉のものが１点ある。古墳時代の遺構は旧河川より北側で検出した。Ｔ４の北側では遺構と思われる落ち込みを確認し、古墳時代の土師器が多く出土したが、Ｔ５では全面を第２面まで掘り下げていないため、遺構のつながりは不明である。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
T1	40	－		－	－	－	
T2	35	0.3(Ⅲ層)	縄土・珠洲	縄土・土師・須恵・珠洲・青磁	縄土・土師	－	穴2(土師)
T3	40	0.8(Ⅳ層)	縄土・土師		縄土・土師	縄土	谷1(縄土・土師・須恵)・穴3(縄土)
T4	70	0.8(Ⅳ層)	墳土・土師・須恵・中土・珠洲	須恵・土師・珠洲	墳土・土師・須恵		溝2(墳土・須恵・珠洲)・穴3
T5	50	0.4(Ⅲ層)	土師・須恵・珠洲	土師		－	穴17(土師)
T6	45	0.3(Ⅲ層)	縄土・土師・須恵・珠洲・陶器	－		－	穴13(縄土・土師・須恵)
T7	45	0.3(Ⅲ層)	土師・須恵			－	穴31(縄土・墳土・土師・須恵)
T8	50	0.2(Ⅲ層)	須恵	土師		－	穴40(墳土・土師)
T9	50	0.6(Ⅳ層)	縄土・土師・須恵	－	縄・須恵・土錘		溝2(土師)・穴3
T10	40	－	縄土・土師・須恵・珠洲	－	－	－	

第３表　ＮＥＪ-16トレンチ一覧

第5図　NEJ-16トレンチ位置図（1：1,000）



(5)　出土遺物（第６図、図版８）

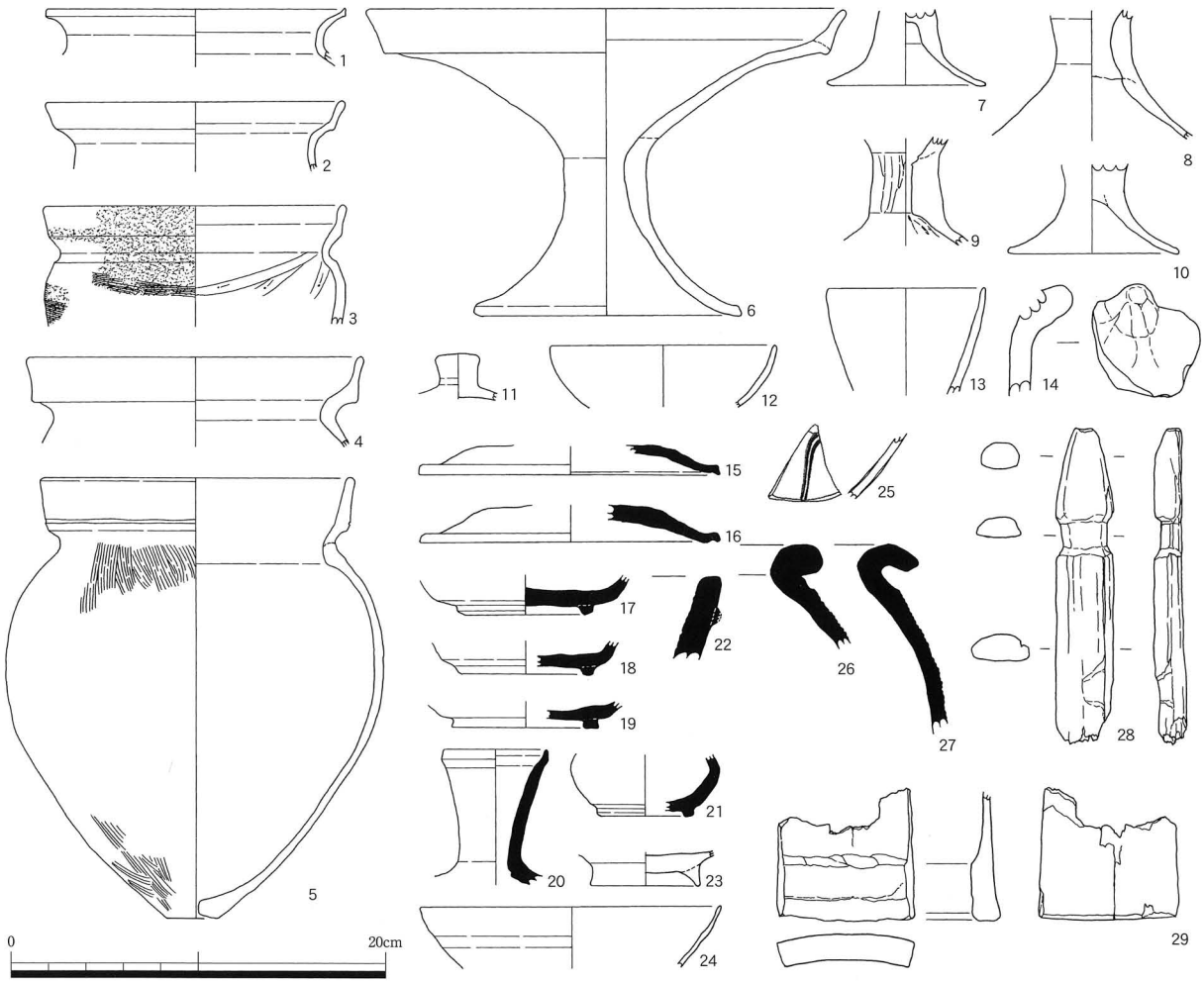
遺物は、縄文土器、土師器（古墳時代）、土師器（古代）・須恵器、中世土師器・珠洲・青磁、越中瀬戸が出土した。

１～14は弥生終末期～古墳時代前期の土器である。１は「く」字状の口縁で端部に面をとる。２は受け口状口縁の甕。３～５は有段口縁の甕で、３・５は外面にハケメ、内面にヘラケズリを施す。６・８・９は器台である。７・10は高坏の脚部である。11は蓋のつまみ部分である。12は椀である。13は壺の口頸部である。14は把手である。上部と下部は欠損しており、胎土は粗い。15～22は須恵器である。17～19は高台坏である。20は長頸壺である。21は小型壺の体部である。22は外面口縁部直下に帯状の突帯を貼り付け口縁部から突帯までの間に平行叩きを施す。内面は口縁部直下より同心円当て具を施す。23は土師器高台椀底部である。24は土師器椀である。25は青磁碗である。26・27は珠洲甕である。26は13世紀後半から14世紀頃、27は13世紀中頃のものである。28は木製の柄である。先端は三角形を呈し、抉ってくびれ部をもたせている。29は刳物桶で、外面は焼けて炭化している。弥生終末期から古墳時代前期にかけて盛行したものである。

(6)　調査の結果（第５図）

第１遺構面では古代・中世、第２遺構面では弥生終末期～古墳前期・縄文の遺構が検出された。ただし県道と鞍骨川に挟まれた部分は河川改修による攪乱を受けているため遺跡の範囲から除外する。遺跡の名称は付近の字名から惣領浦之前遺跡とした。本調査対象面積は9,900㎡で、２面あるため延べ面積は19,800㎡である。

（越前慎子）



第６図　ＮＥＪ-16出土遺物（１：４）、（１：８（29））　T2（25・26）　T4（1～13・16～19・21・23・28・29）　T6（20・27）　T8（24）　T10（14・15・22）

3　ＮＥＪ－17埋蔵文化財包蔵地

(1)　調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－17は、十三谷と呼ばれる仏生寺川流域の谷平野に位置する。南北を宝達丘陵から派出する小丘陵に挟まれ、ほぼ中央を仏生寺川支流の矢田部川が東西に流れる。現況は、北側丘陵裾が宅地、その他は田地・畑地である。標高は約５～６ｍで、矢田部川に向かってわずかに下っている。

(2)　調査の方法（第８・９図）

幅約1.8ｍ・長さ約10～50ｍのトレンチを14箇所設定し、重機により掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は14,890㎡、調査面積は639㎡である。

(3)　基本層序

Ⅰａ層	現耕作土	にぶい黄色シルト質ロームなど（約30cm）
Ⅰｂ層	盛土	灰色砂質ロームなど（約30cm）
Ⅰｃ層	旧河川埋土	暗オリーブ灰色粘土質ロームなど（約35cm）
Ⅱ　層	遺物包含層	灰色粘土質シルトなど（約45cm）
Ⅲ　層		ピート混灰色粘土（約30cm）
Ⅳ　層		黄灰色粘土

※　下層確認のため一部で深掘りを行い、現況面より約２～３ｍ掘削してみたところ、Ⅳ層の下に貝層（Ⅴ層）、泥岩層（Ⅵ層）を確認した。（Ⅳ　自然科学分析　貝類の同定参照）

(4)　調査の状況（第４表、第８・９図、図版９）

調査範囲南半に設定したＴ２～４・11～14で、遺物を少量検出したものの、遺構は全く確認されなかった。また、遺物の大半は表土・盛土（Ⅰａ・ｂ層）からの出土であり、Ｔ11Ⅲ層で検出された縄文土器片を例外として、Ⅲ層以下は無遺物層である。Ｔ１・２・11～14では、矢田部川改修に伴う河川埋土（Ⅰｃ層）が検出されている。

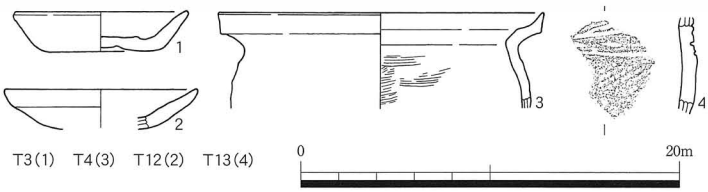
(5)　出土遺物（第７図、図版９）

縄文土器、土師器・須恵器、瀬戸美濃、青磁、中世土師器・珠洲・越中瀬戸などが出土した。

１・２は非ロクロ成形の中世土師器。３は土師器の有段口縁甕、古墳時代前期白江式に比定される。４は縄文時代後期、前田式に比定される深鉢と思われる。

(6)　調査の結果（第８・９図）

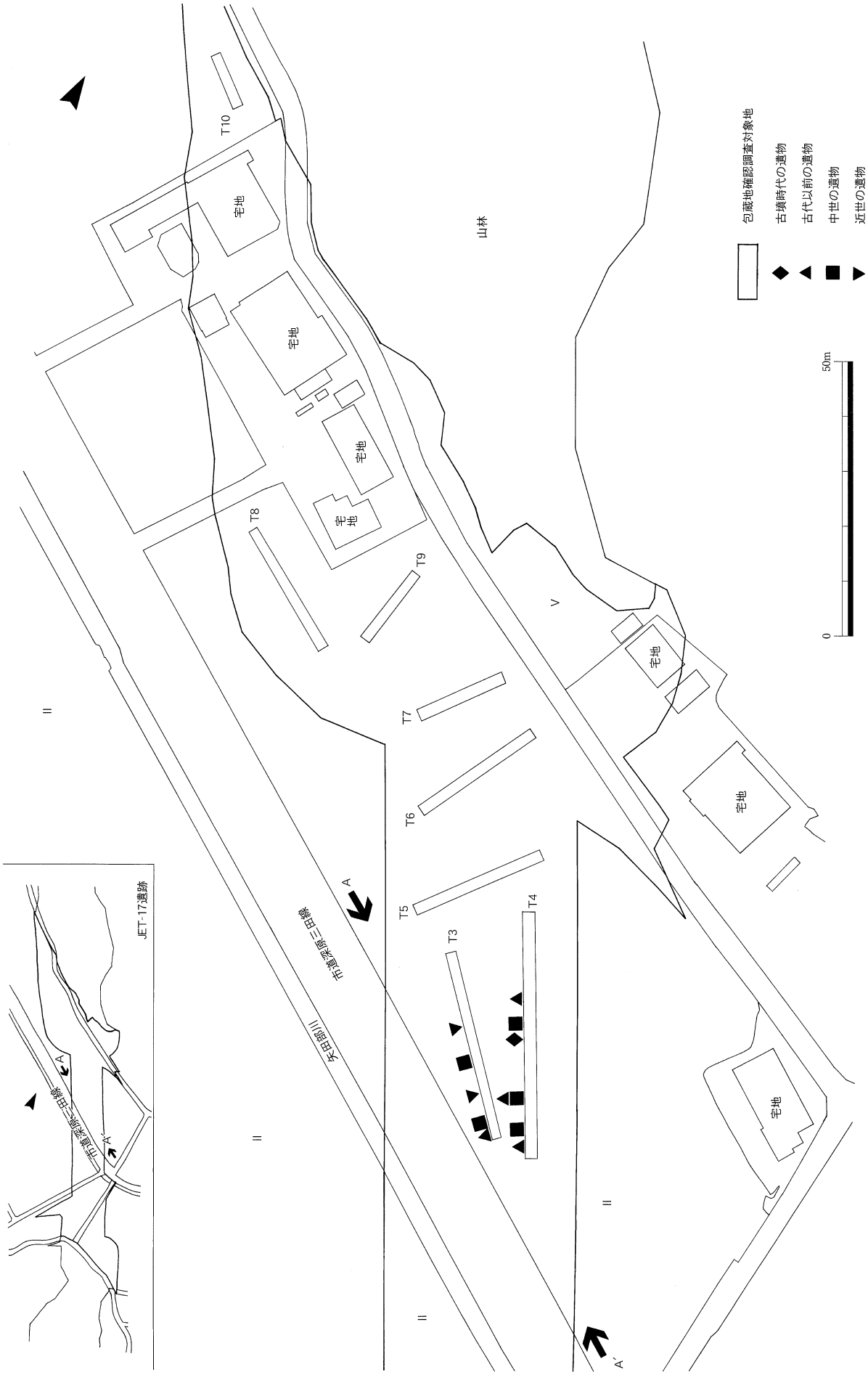
ＮＥＪ－17埋蔵文化財包蔵地は、弥生時代から近世にかけての散布地として登録されているが、今回の調査範囲で遺跡を確認することはできなかった。



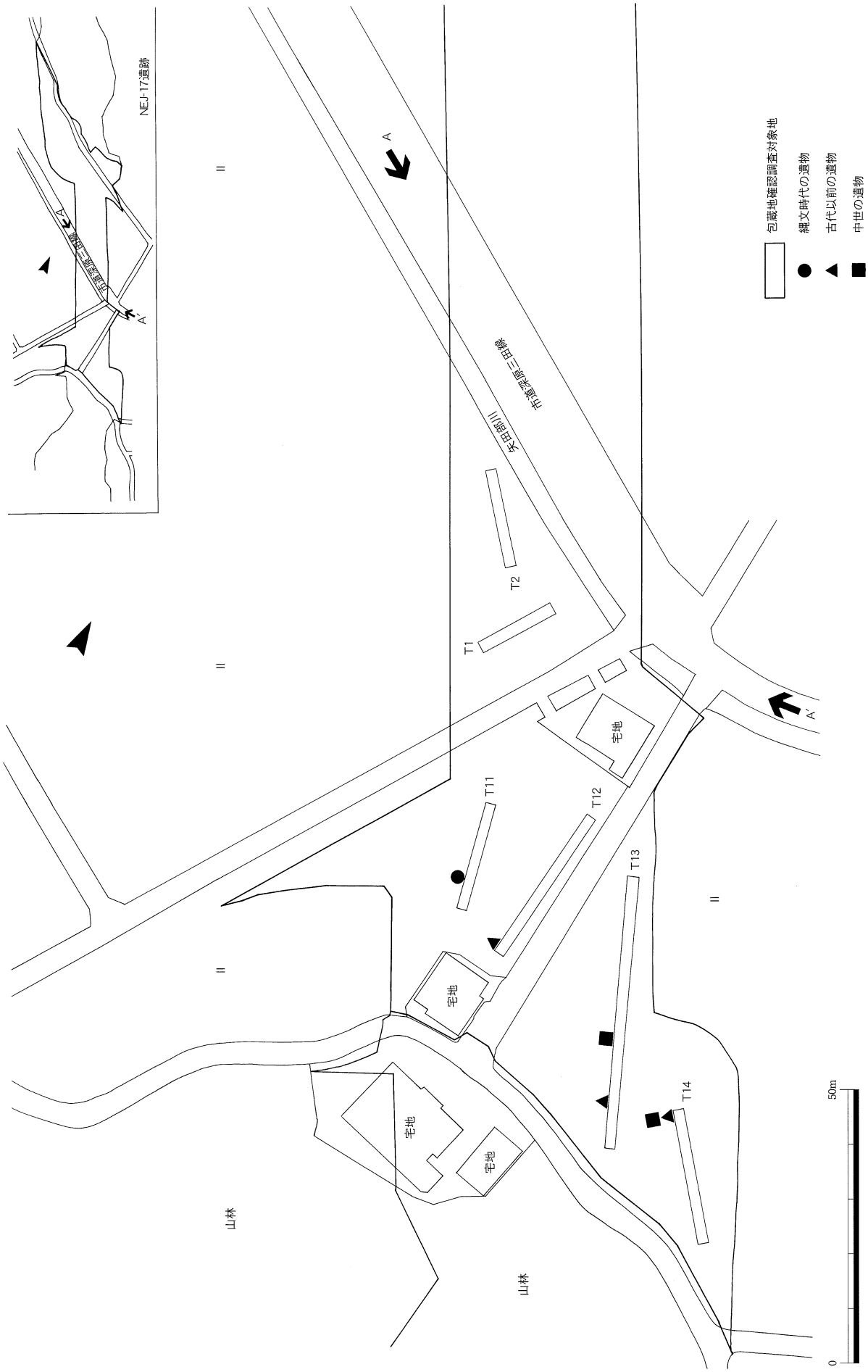
第７図　ＮＥＪ-17出土遺物（１：４）

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅰc層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	遺構
Ｔ１	15	0.9							
Ｔ２	18	0.8				越瀬			
Ｔ３	35	1.0	土師	中土・越瀬・伊万・白磁	－				
Ｔ４	45	0.6		土師・須恵・瀬美・青磁	－	墳土・土師	－	－	
Ｔ５	25	0.4			－				
Ｔ６	25	0.4			－		－	－	
Ｔ７	17	0.4			－				
Ｔ８	15	1.2			－			－	
Ｔ９	25	0.9			－			－	
Ｔ10	10	0.7			－		－	－	
Ｔ11	20	1.5					縄土	－	
Ｔ12	30	1.4		中土					
Ｔ13	50	1.1	須恵・越瀬					－	
Ｔ14	25	0.9	土師・珠洲					－	

第４表　ＮＥＪ-17トレンチ一覧



第８図　ＮＥＪ-17遺跡トレンチ位置図（1）（１：1,000）



第９図　ＮＥＪ-17遺跡トレンチ位置図（2）（１：1,000）

4　ＮＥＪ－18埋蔵文化財包蔵地

(1)　調査対象地（図版１・２）

ＮＥＪ－18は、仏生寺川の支流である万尾川右岸、宝達丘陵から派出した小丘陵斜面と、それに挟まれた谷間に立地する。地形は谷奥から東方向の万尾川へ下っており、標高約12～14ｍを測る。丘陵部は一段高く、比高差約３ｍ、標高約18～21ｍ。現況は山林・田地である。

(2)　調査の方法（第10図）

幅約1.65ｍ・長さ約45～50ｍのトレンチを５箇所、幅約1.0ｍ・長さ約６～30ｍのトレンチを４箇所、計９箇所設定し、重機及び人力により掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は4,910㎡、調査面積は477㎡である。

(3)　基本層序

谷　部

Ⅰａ層	現耕作土	にぶい黄褐色砂質シルト（約40㎝）
Ⅰｂ層	盛土	暗オリーブ灰色砂質シルト（約15～150㎝）
Ⅱ　層	谷埋土	オリーブ黒色砂質シルトなど（約30～150㎝）
Ⅲ　層	地山	オリーブ灰色砂

丘陵部

Ⅰａ層	表土	黒褐色砂質ローム（約25㎝）
Ⅰｂ層	盛土	灰黄褐色砂質ローム（約10～75㎝）
Ⅱ　層	地山	暗褐色粘土質シルト

(4)　調査の状況（第５表、第10図、図版９）

谷部に設定したＴ１～５では、谷埋土が厚く堆積しており、地山（Ⅲ層）は部分的な深掘りによって確認したにすぎない。遺物は、縄文土器、土師器・須恵器、中世土師器・珠洲、越中瀬戸が少量出土しているが、遺構は検出されていない。丘陵部（Ｔ６～９）からは、遺物はほとんど検出されず、遺構も確認されなかった。Ｔ６南端部の盛土（Ⅰｂ層）中より、須恵器、珠洲、唐津・伊万里などが出土しているが、斜面端部は崩落した際に盛り土されており、遺跡に伴うものかは判然としない。なお、調査範囲東端の丘陵斜面に横穴状の掘り込みがみられたため、トレンチ（Ｔ９）を設定し、前庭部の有無の確認などを行ったが、関連遺構および遺物は検出されなかった。

(5)　出土遺物（図版９）

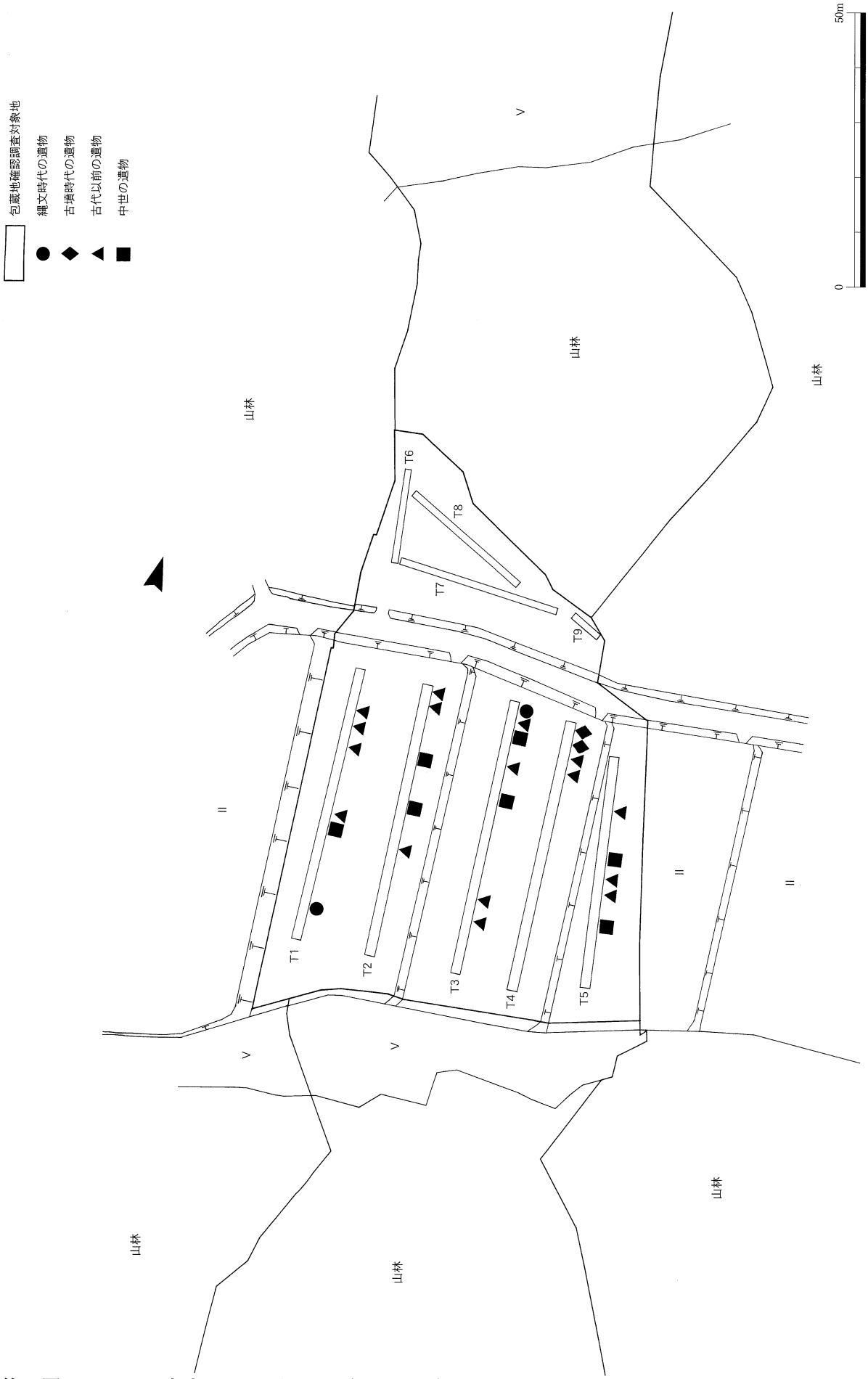
図化していないが、縄文土器、土師器・須恵器、中世土師器・珠洲、越中瀬戸・唐津・伊万里などが出土している。

(6)　調査の結果（第10図）

ＮＥＪ－18埋蔵文化財包蔵地は、平成11年度の分布調査で珠洲が採集され、中世の散布地として登録されているが、今回調査を行った範囲では遺跡は確認されていない。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	50	1.2		土師・珠洲	土師		
Ｔ２	50	1.3	唐津	土師・須恵・越瀬			
Ｔ３	50	1.3		縄土・土師・須恵・中土・珠洲	土師・珠洲		
Ｔ４	50	1.3		土師			
Ｔ５	45	1.2	土師	須恵・中土・珠洲			
Ｔ６	17	0.5		珠洲・唐津・伊万	須恵	－	
Ｔ７	30	0.7				－	
Ｔ８	25	0.3				－	
Ｔ９	6	0.3				－	

第５表　ＮＥＪ-18トレンチ一覧



第10図　ＮＥＪ-18遺跡トレンチ位置図（１：1,000）

5　正保寺遺跡

(1)　調査対象地（図版１・２）

正保寺遺跡は、仏生寺川の中流右岸、仏生寺・神代丘陵から十三谷に向かって延びる小丘陵上から裾部にかけて立地し、尾根続きに約300m北東には、中世城館として知られる飯久保城跡が位置する。現況は山林・畑地・田地などで、標高は約９～51mと比高差約42mを測る。本遺跡は中世寺院跡と伝えられ、平成７年度に氷見市教育委員会が行った分布調査では、丘陵西斜面に石造物が散在しているのが確認されている。

(2)　調査の方法（第11・12図）

幅約1.0m・長さ約３～25mのトレンチを19箇所、１辺約2.0mのグリッドを３箇所設定し、人力により掘削、遺構及び土層断面の検出を行った。なお、丘陵裾に設定したトレンチのうち、T13・14・16・17・19は湧水が激しく、遺構の検出や土層断面の観察などは困難と判断し、欠番とした。調査対象面積は16,950m²、調査面積は228m²である。

(3)　基本層序

丘陵斜面

Ⅰ　層	表土・盛土	褐灰色ロームなど
Ⅱ　層	古代・中世遺物包含層	褐灰色粘土質ロームなど
Ⅲ　層	古代遺物包含層	灰黄褐色粘土質ロームなど
Ⅳａ層	古代遺構面	にぶい黄褐色シルト質ローム
Ⅳｂ層	地山	明黄褐色泥岩層

丘陵裾

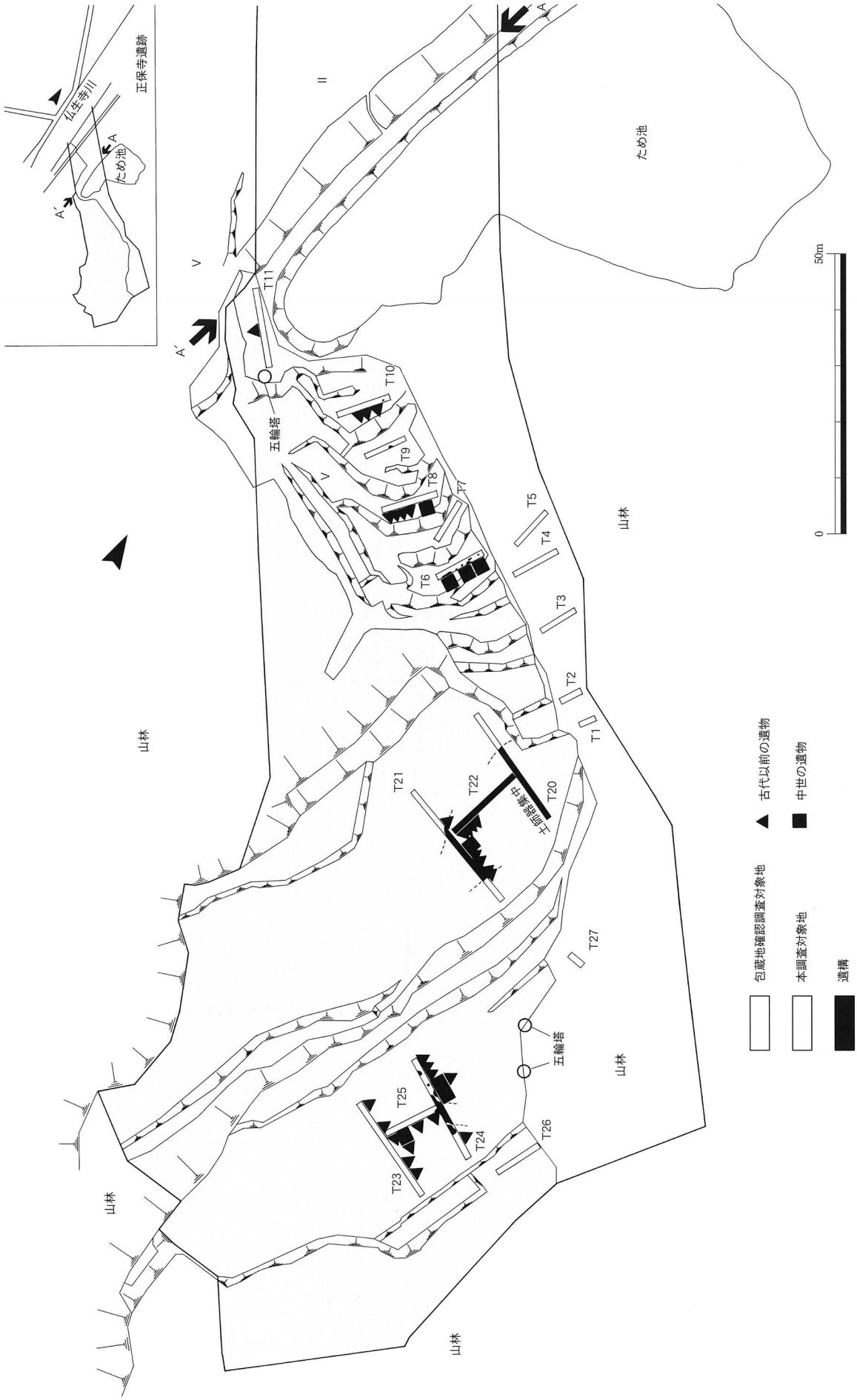
Ⅰａ層	現耕作土	にぶい黄褐色粘土質シルトなど
Ⅰｂ層	盛土	黒褐色粘土質シルトなど
Ⅱ　層	遺物包含層	オリーブ黒色粘土質シルトなど
Ⅲ　層	中世遺構面	灰色粘土

(4)　調査の状況（第６表、第11・12図、図版10）

丘陵斜面に設定したＴ２～４・６～11・20～27で、古代～中世遺物包含層であるⅡ層を検出し、そのうちＴ８～10・20～25では、古代遺物包含層（Ⅲ層）を確認した。遺構は、Ｔ６・９・10・20

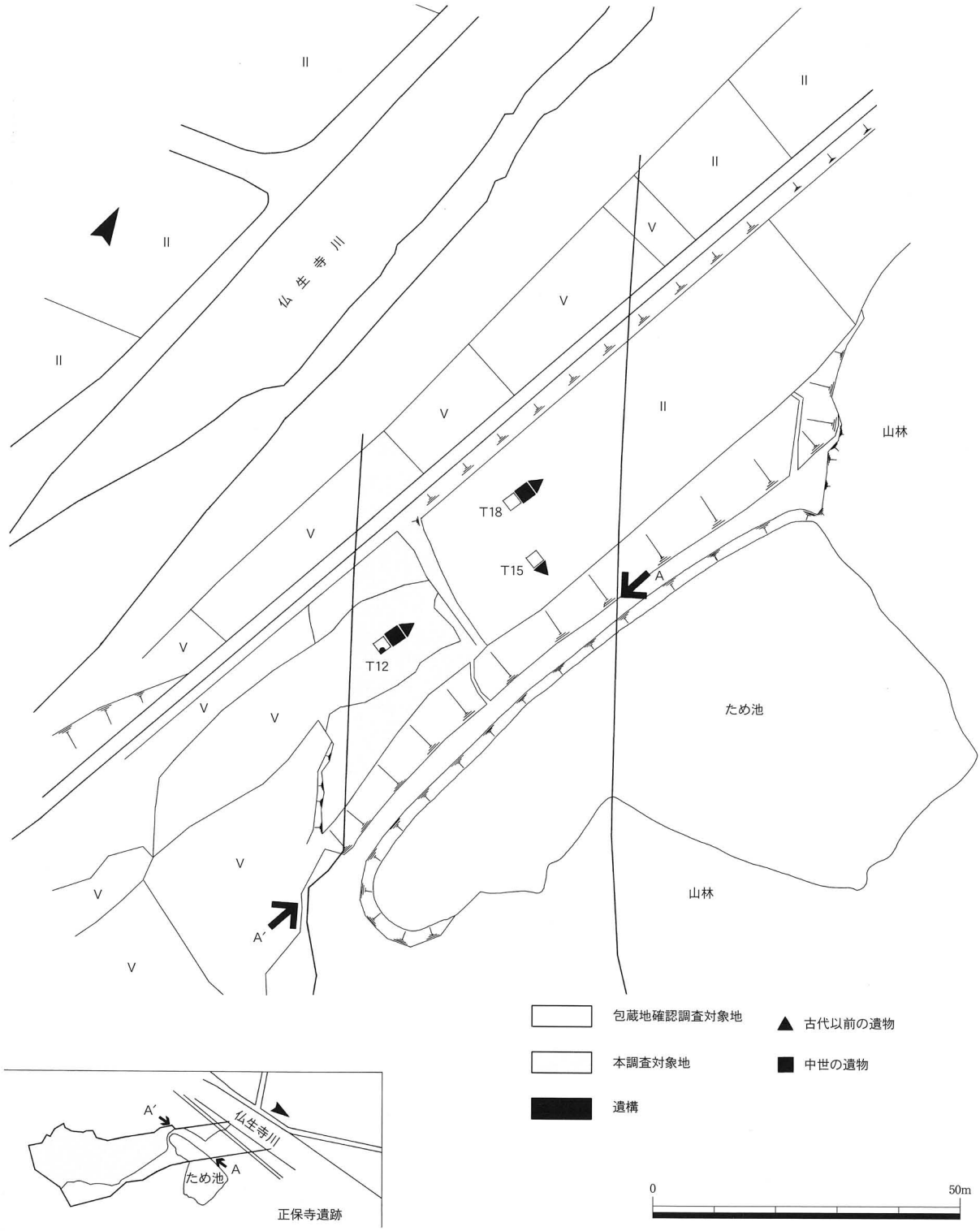
トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳａ層	Ⅳｂ層	遺構
T1	3	0.1		–	–	–		
T2	4	0.2			–	–		
T3	7	0.2～0.7			–	–		
T4	9	0.4			–	–		
T5	8	0.2		–	–	–		
T6	9	0.7(Ⅳa層)	珠洲	珠洲	–			土坑３・穴３
T7	8	0.3～1.4(Ⅳa層)			–			
T8	10	1.3(Ⅳa層)		土師				
T9	8	1.8(Ⅳa層)						土坑１
T10	10	0.8～1.8(Ⅳa層)	土師	土師				穴１
T11	14	0.1	須恵		–	–		
T12	2	0.6	土師・珠洲	珠洲・石製品		–	–	土坑
T15	2	1.0	土師		–	–	–	
T18	2	1.3	瀬美	土師・珠洲		–	–	
T20	23	0.4(Ⅳa層)		土師・須恵・珠洲・鉄滓	土師			大溝１
T21	25	0.3(Ⅳa層)	土師	墳土・土師・伊万・煙管				大溝１
T22	15	0.8(Ⅳa層)	土師	土師・中土・珠洲	土師			大溝１
T23	20	0.4～1.2(Ⅳa層)		土師	土師			
T24	20	0.1～1.0(Ⅳa層)		土師・中土・珠洲・五輪塔	土師			溝１・土坑３・穴１
T25	11	1.3(Ⅳa層)	土師・瀬戸	土師				土坑１
T26	9	0.2(Ⅳa層)			–			穴１
T27	3	0.5～1.4			–	–		

第６表　正保寺遺跡トレンチ一覧



第11図　正保寺遺跡トレンチ位置図（1）（1：1,000）

～22・24～26のⅣa層上面から、溝・土坑・穴を検出している。遺物は、土師器・須恵器、中世土師器・珠洲などが出土しているが、大半は標高約41mと50mにあるテラス状平坦面（T20～23、T24～26）からの出土で、特に下位平坦面で検出された大溝の丘陵頂部側に集中している。大溝は幅約10～15m、深さ約1.6mを測り、時期は出土遺物から9～10世紀代に帰属するものと想定される。上位平坦面では、溝・土坑・穴を検出した。遺構の時期は、下位平坦面の大溝とほぼ同時期に比定されるだろう。また、調査範囲南東端部に1辺約6mほどの方形の盛り土がみられたため、トレンチ（T26）を設定したところ、柱穴と思われるピット1基が検出された。遺物を伴わないため時期は



第12図　正保寺遺跡トレンチ位置図（2）（1：1,000）

不明だが、建物の基壇と推定される。このほか上位平坦面の東端部２箇所および丘陵裾の計３箇所で、五輪塔がまとめられ放置されているのを確認した。調査対象地北東半部（Ｔ１～５・27）からは、遺構および遺物は検出されていない。

丘陵裾に設定したグリッド３箇所のうち、南端に位置するＴ12では、Ⅲ層上面で土坑が検出され、覆土中からは珠洲擂鉢と石製品（砥石？）が出土している。遺構の時期は、出土遺物から判断して15世紀代と思われる。一方、北半部に設定したＴ15・18は、Ｔ12に比べ一段低く、湧水が著しいため遺構面を確認することができず、遺物も土師器や珠洲を数点検出するに止まった。

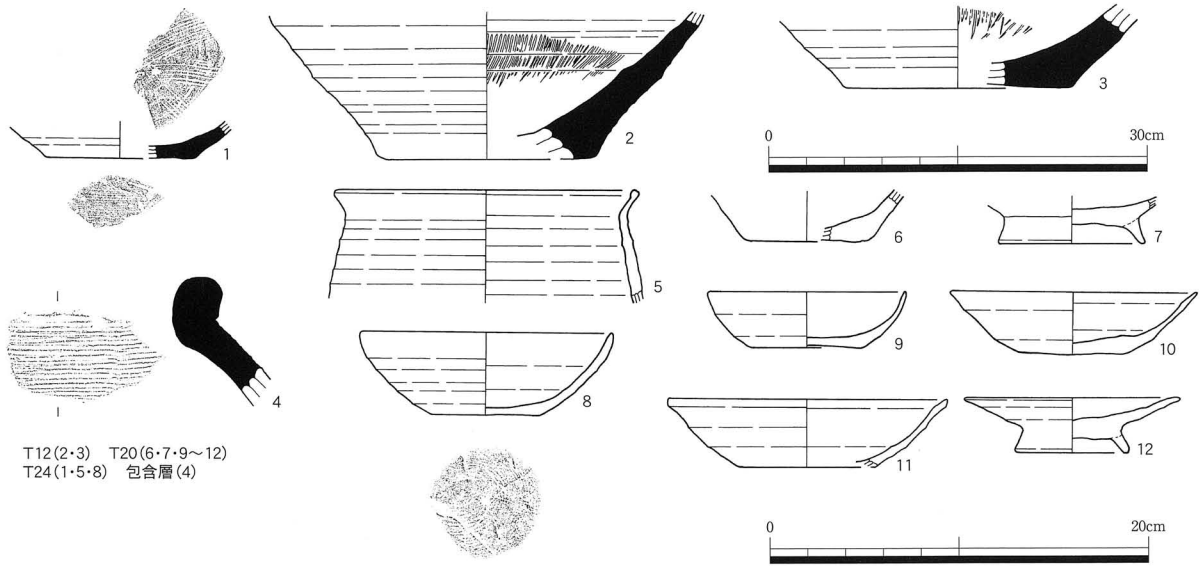
(5)　出土遺物（第13図、図版10）

土師器・須恵器、中世土師器・珠洲・瀬戸美濃、伊万里、五輪塔（空風輪）などが出土している。１～４は珠洲。１～３は擂鉢で、１は８条１単位の直線卸目が施される。２・３はともに内面の摩滅が著しいが、卸目を放射状に隈なく巡らす。４は叩甕の口縁部破片。１は吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期、２・３はⅤ～Ⅵ期、４はⅣ期に比定できるだろう。５～12は土師器。５は甕の口縁～胴上部破片。口縁を内側に折り曲げ、内外面ともロクロナデが施される。６は壺の底部破片。７は有台坏の底部破片。８～11は無高台の坏。８・９の体部は内湾し、８の底部には回転糸切痕が残る。10・11は口縁部が外反する。12は有台皿。帰属時期は概ね９世紀後半～10世紀の所産と思われる。

(6)　調査の結果（第11・12図）

今回の調査では、調査対象地の南西半部（Ｔ６～12・20～26）において遺跡の広がりを確認した。遺跡の時期は古代～中世で、丘陵斜面（Ｔ６～11・20～26）では、２箇所の平坦面を中心に古代遺跡の広がりが確認された。当初、伝承される中世社寺や、尾根続きに近接する飯久保城跡との関連から中世遺跡の存在が想定されていたが、丘陵上で確認することはできなかった。また、上位平坦面で基壇状の盛り土を確認したが、伝承される中世社寺との関連は明らかではない。一方、丘陵裾（Ｔ12）では、中世の遺構面を検出した。今回の調査対象地外であるが、仏生寺川に沿ってＴ12の南側に遺跡範囲が広がる可能性は高い。

調査対象地の北東半部（Ｔ１～５・15・18・27）からは遺構は確認されず、遺物もほとんど検出されないため、遺構範囲からは除外する。以上の結果から、本調査対象面積は丘陵斜面（古代）、丘陵裾（中世）ともに単層で、約8,600㎡である。



第13図　正保寺遺跡出土遺物（１：４（4～12）、１：６（1～3））

6　粟原（あわら）A遺跡

(1)　調査対象地（図版３）

粟原Ａ遺跡は、仏生寺川支流である万尾川上流の左岸、宝達丘陵から派出した小丘陵の斜面から裾部にかけて立地する。標高は約４～21mを測り、現況は畑地・山林である。約250m上流の丘陵裾には、遺物散布地（時期不明）の粟原Ｂ遺跡が位置する。本遺跡は、平成７年度の氷見市教育委員会が行った分布調査において古墳時代後期から古代の遺物を採集し、古代（奈良時代）の散布地として登録されている。

(2)　調査の方法（第15図）

幅約1.0m・長さ約13～25mのトレンチを４箇所設定し、人力によって掘削、遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は3,100m²、調査面積は76m²である。

(3)　基本層序

丘陵部

Ⅰ　層	表土黒	褐色シルト質ロームなど（約20cm）
Ⅱ　層	古代遺構面	にぶい黄褐色粘土質ローム

裾部

Ⅰａ層	現耕作土	暗灰黄色砂質ローム（約20cm）
Ⅰｂ層	盛土	黄灰色粘土質ロームなど（約30cm）
Ⅱ　層	古代遺物包含層	黄灰色粘土質ローム（約15cm）
Ⅲ　層	古代遺構面	オリーブ灰色粘土など

※　下層確認のため一部で深掘りを行い、現況面より約１m掘削してみたが、遺物包含層及び遺構面を確認することはできなかった。

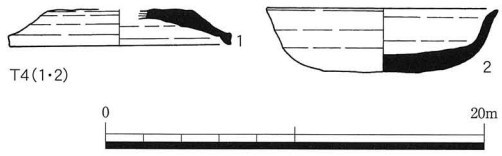
(4)　調査の状況（第７表、第15図、図版11）

遺物包含層を確認できたのは丘陵裾に設定したＴ４のみで、古代遺物包含層であるⅡ層から土師器や須恵器が少量ではあるが出土している。Ｔ４では、Ⅲ層上面において溝３条・土坑２基を検出している。このうち東端に位置する土坑からは須恵器坏が伏せた状態で、また土坑の西脇にあたる遺構検出面（Ⅲ層）直上からは須恵器坏蓋が出土している。遺構の時期は検出された須恵器から判断して、８～９世紀代に帰属するものと思われる。一方、丘陵斜面（Ｔ１～３）ではⅡ層上面で溝・土坑を検出したが、現地表面から遺構検出面（Ⅱ層）までは約20cmと浅く、遺物包含層および遺物は確認されていない。そのため、遺構の帰属時期は明らかではないが、分布調査の結果などを踏まえて、丘陵裾とほぼ同時期に比定されるものとしておきたい。

(5)　出土遺物（第14図、図版11）

土師器・須恵器、越中瀬戸が出土している。

１・２ともに須恵器。１はロクロ成形の坏蓋。頂部付近を欠損するが、つまみを有するものと思われる。口縁



第14図　粟原A遺跡出土遺物（１：４）

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	20	0.3(Ⅱ層)		－		－	土坑２
Ｔ２	18	0.2(Ⅱ層)		－		－	溝２・土坑２・穴３
Ｔ３	13	0.2(Ⅱ層)		－		－	土坑１
Ｔ４	25	0.6(Ⅲ層)	土師	越瀬	土師・須恵		溝３・土坑２

第７表　粟原A遺跡トレンチ一覧

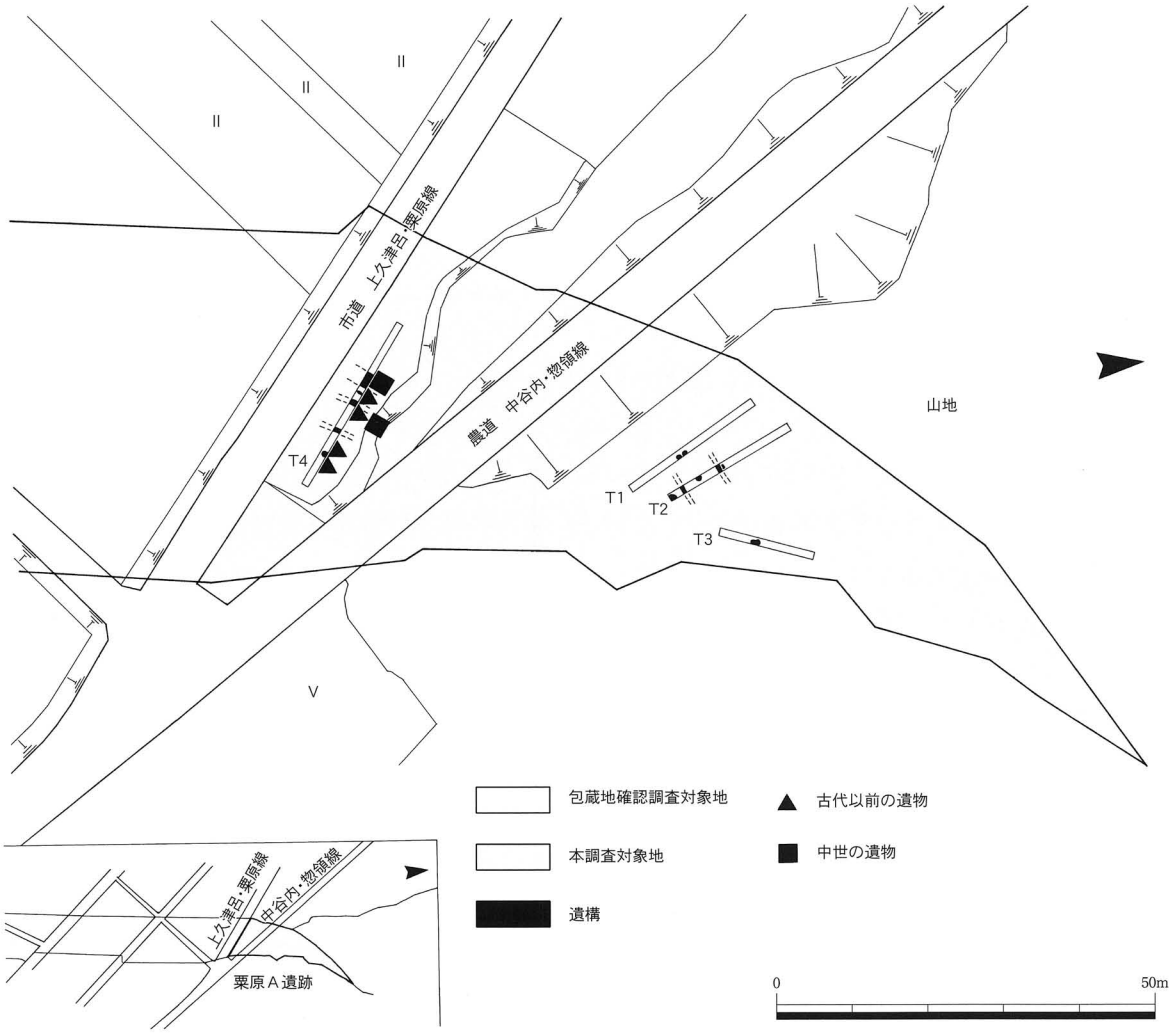
端部は外反する。２は無高台の坏身。底部は回転ヘラキリ、口縁端部がやや外反する。内外面ともロクロナデを施す。８～９世紀代の所産と思われる。

(6)　調査の結果（第15図）

今回の調査では、丘陵裾（Ｔ４）において遺跡の広がりを確認した。遺跡の時期は古代で、８～９世紀代を中心とすると思われる。丘陵斜面（Ｔ１～３）では遺物が検出されていないため詳細時期は断定できないが、遺跡範囲は丘陵斜面を含め調査対象地全面に広がるものと想定される。以上のことから、調査対象地内の本調査を必要とする遺跡の範囲は、丘陵南西斜面から裾にかけて3,100㎡となる。

なお、今回は調査対象地外であるが、市道上久津呂・粟原線を挟んで南側に広がる谷平野部へ遺跡範囲が拡がる可能性はあり、今後調査による確認が必要と考える。また、約250m北西に位置する粟原Ｂ遺跡は、時期不明ではあるが立地的にも距離的にも本遺跡と関連する可能性は十分考えられる。今後の調査で両遺跡の関係が明らかになることを期待したい。

（長瀬　出）



第15図　粟原A遺跡トレンチ位置図（１：1,000）

7　中谷内遺跡

(1)　調査対象地（図版３）

仏生寺川の支流である中谷内川に開析された谷底平野に位置し、南側と北側には石動丘陵から派出した小丘陵がのびている。遺跡は平野部を中心に、丘陵上へも広がりが認められる。現況は、平野部は水田、丘陵部は山林で、丘陵裾部は畑地、荒蕪地となっている。北側丘陵部の標高は、最も高いＴ36で約22.2m、丘陵裾のＴ７で約5.2mを測る。南側丘陵部は最も高いＴ32で約8.7m、丘陵裾のＴ28で約5.4mを測る。平野部は東へ向かって低くなっており、Ｔ８が最も高い段にあって約5.0m、３面重層のＴ９～15では約4.2m、古墳～中世の２面重層のＴ18～20では約4.1m、第２面に縄文を検出したＴ25を含むＴ16・17・22～27が最も低い段で約3.0～3.4mとなっている。

(2)　調査の方法（第16～18図）

幅約1.65m・長さ10～50mのトレンチ19箇所と、幅0.9m、長さ15～55mのトレンチ10箇所は重機による掘削を行い、幅１m、長さ15～25mのトレンチ３箇所は人力による掘削を行った。調査対象面積は42,870m²、調査面積は1,455m²である。

(3)　基本層序と調査の状況（第８表、第16～18図、図版12・13）

①北側丘陵裾部分（Ｔ１～７・Ｔ33～40）

ａ．基本層序

Ⅰａ層	表土	暗褐色シルト質ローム・灰黄褐色シルト質ローム
Ⅰｂ層	盛土	暗灰黄色シルト
Ⅱ　層	中世包含層	黒褐色シルト・にぶい黄褐色粘土
Ⅲ　層	中世遺構検出面	浅黄色粘土質ローム・にぶい黄橙色泥岩層
Ⅳ　層	古代以前包含層？	灰色粘土質ローム・オリーブ黒色シルト
Ⅴ　層	地山	明黄褐色粘土質ローム
	地山	オリーブ黒色粘土質ローム層
	地山	緑灰色砂質ローム層

ｂ．調査の状況

丘陵部（Ｔ33～40）では、Ⅰ層の平均層厚は約20cm、Ⅱ層は110cmを測るＴ37を除けば約20～40cm、地表面から地山（Ⅲ層）までの深さは、Ｔ37が150cmを測るほかは平均約50cmである。遺構はⅢ層上面で柱穴・溝・土坑を検出した。遺物は最も丘陵裾側にあるＴ40を中心に、土師器（古代）、中世土師器・珠洲が出土した。

丘陵裾部（Ｔ１～７）では、Ⅰ層は谷状に深くなっている部分もあり、層厚の平均は約40cmである。Ｔ１・２・７ではⅠ層直下が遺構面になっているが、その他のトレンチではⅡ層が谷状に深くなっている部分もあり、Ⅱ層の平均層厚は約20cmである。Ⅲ層上面では柱穴・溝・土坑を検出した。Ⅳ層からは土師器が１点のみ出土しているが、遺構は確認されていない。

②平野部（Ｔ８～27）

ａ．基本層序

Ⅰａ層	表土	黄灰色粘土質シルト
Ⅰｂ層	盛土	黄灰色粘土質シルト
Ⅱ　層	古代・中世包含層	黒褐色粘土質シルト
Ⅲ　層	古代・中世遺構面、古墳・古代包含層	オリーブ灰色粘土質シルト
Ⅳ　層	古墳・古代遺構面、古墳包含層	黄灰色粘土質シルト
Ⅴ　層	古墳遺構面・縄文包含層	オリーブ灰色粘土質シルト
Ⅵ　層	縄文遺構面	オリーブ黒色粘土質シルト

b．調査の状況

遺構は、Ⅲ層・Ⅳ層上面で柱穴・溝・土坑、Ⅴ層上面で柱穴、Ⅵ層上面で柱穴・溝が検出された。ただし、Ⅳ～Ⅵ層は遺跡全体に広がっているのではなく、T22～25ではⅢ層（中世・古代面）の下はⅣ・Ⅴ層が無く、Ⅵ層（縄文面）となっている。T18ではⅢ・Ⅳ層を確認した。T12～14ではⅢ・Ⅳ・Ⅴ層を確認した。上層の遺構の保護のため、下層の状態を確認できなかったトレンチもあるが、平野部には概ね2面または3面の遺構面が広がっていると考えられる。

③南側丘陵裾部（T28～32）

a．基本層序

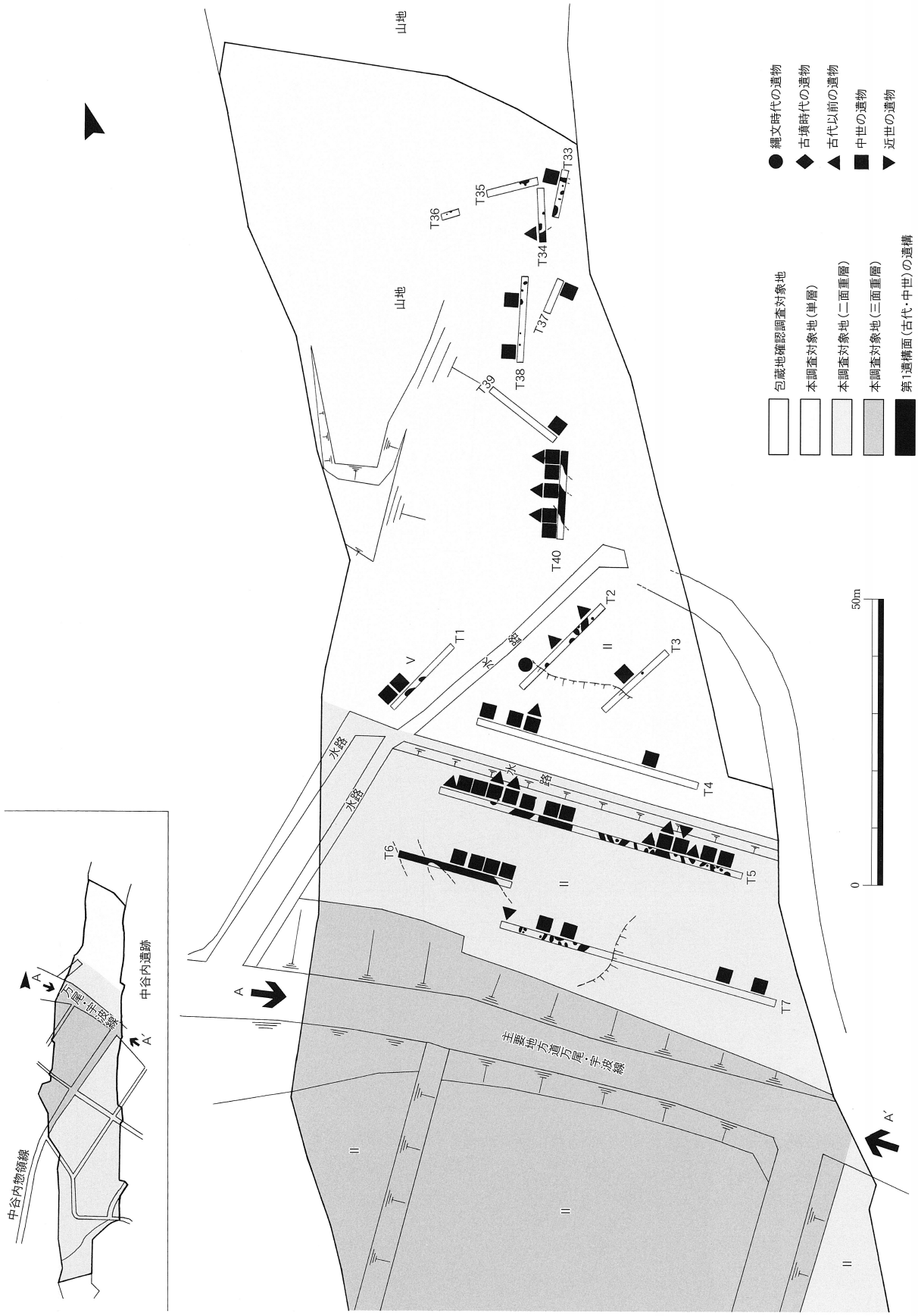
Ⅰ層	表土	オリーブ褐色シルト質ローム
Ⅱ層	中世包含層	緑灰色シルト
Ⅲ層	中世遺構検出面・縄文包含層	にぶい黄色粘土質ローム
Ⅳ層	縄文検出面	緑灰色砂質シルト

b．調査の状況

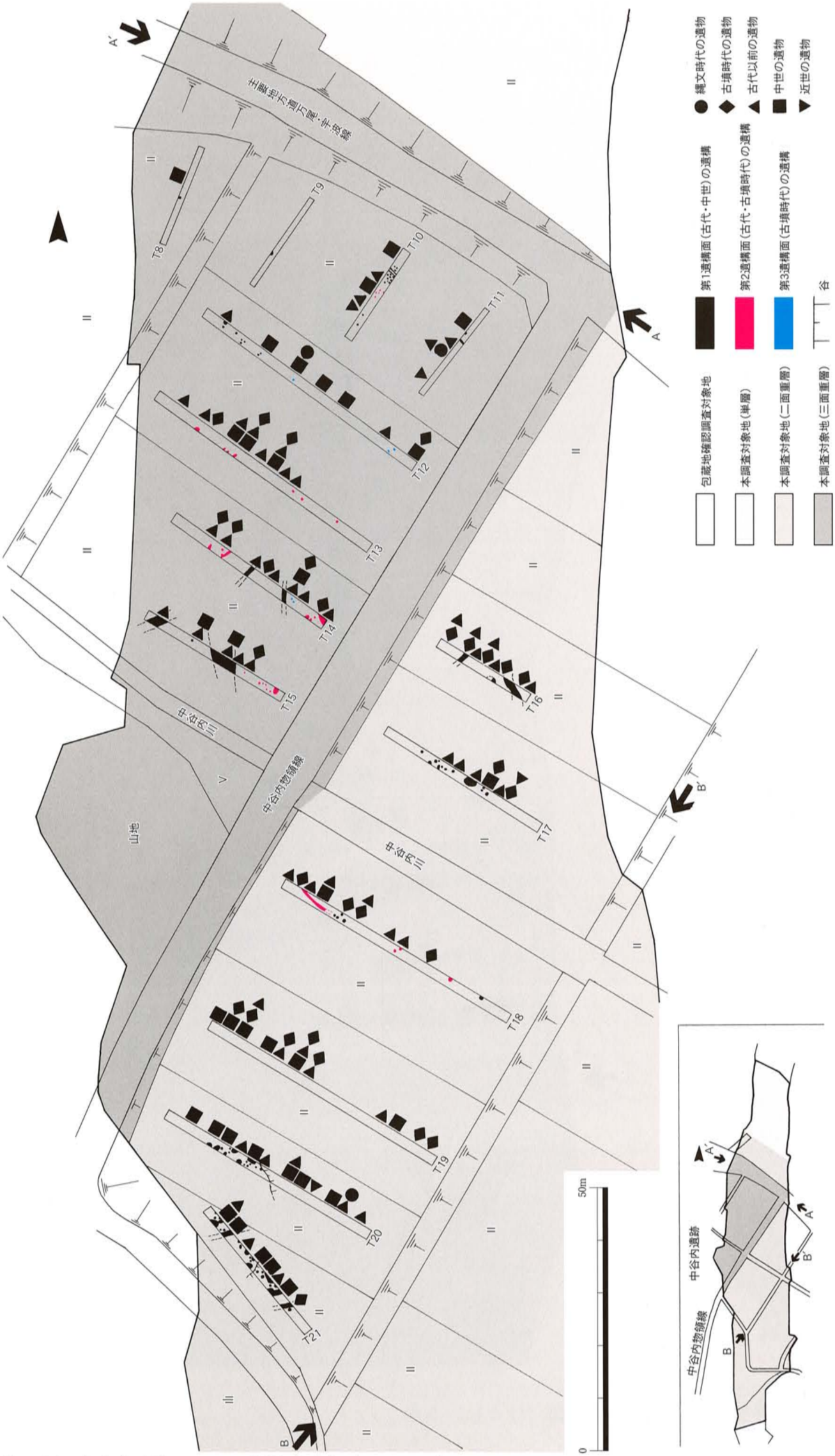
Ⅰ層の層厚はT29では約100cmあるが、その他のトレンチでは平均約40cmである。Ⅱ層はT29にはないが、その他のトレンチでは平均約15cmである。Ⅳ層まで確認したのはT30で、Ⅲ層の平均層厚は約40cmである。中世の遺構は柱穴・溝・土坑で、中央には南北方向の谷がある。縄文の遺構は、一部分しか深掘りしていないため、平面形は不明である。

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層	遺構
T 1	15	0.3(Ⅲ層)		－		－	－	－	穴2(土師)・溝1
T 2	20	0.4(Ⅲ層)	須恵・縄土？			－	－	－	穴5(土師)・溝3(土師)・谷
T 3	15	0.3(Ⅲ層)	土師			－	－	－	溝1・谷
T 4	40	1.7(Ⅲ層)	縄土・土師			－	－	－	谷
T 5	55	0.3(Ⅲ層)	土師・珠洲	須恵・砥石		－	－	－	穴17(須恵・中土)・溝9(須恵・土師・珠洲)
T 6	20	0.5(Ⅲ層)	土師・珠洲	土師・珠洲		－	－	－	溝2
T 7	50	0.2(Ⅲ層)	土師・珠洲			土師	－	－	穴7(土師・珠洲)・溝4・谷(土師)
T 8	20	1.1(Ⅲ層)	土師					－	穴1
T 9	20	0.8(Ⅲ層)						－	穴1
T10	20	1.5(Ⅳ層)	須恵・中土・伊万・唐津	土師				－	穴20・溝1
T11	20	1.3(Ⅲ層)	土師・瀬美	縄土？・須恵・土師				－	穴1・溝1
T12	50	1.7(Ⅴ層)	墳土・土師・珠洲	土師		磨製石斧		－	穴11
T13	50	1.6(Ⅴ層)	土師・中土	墳土・土師・中土	土師			－	穴6・溝1
T14	35	1.1(Ⅴ層)	墳土・須恵	墳土・須恵・土師	須恵・土師			－	穴10・溝3(土師)
T15	30	0.4(Ⅲ層)	墳土・須恵・珠洲・青磁	－			－	－	穴9・溝2(須恵・土師)
T16	20	0.7(Ⅲ層)	墳土・須恵・土師	墳土		－	－	－	溝2
T17	35	0.5(Ⅲ層)	須恵・土師・瀬美・信楽・唐津	－			－	－	穴12(墳土・土師)
T18	50	1.4(Ⅴ層)	土師	墳土・須恵・土師	墳土・須恵・土師	墳土		－	穴7(土師)・溝1(須恵)
T19	50	?	墳土・土師・珠洲	須恵・土師・珠洲	－	－	－	－	－
T20	45	0.4(Ⅲ層)	須恵・土師・珠洲・越瀬	土師・須恵・内黒		－	－	－	穴14(土師)・谷(縄土・土師)
T21	30	0.7(Ⅲ層)		土師・珠洲	墳土・土師	－	－	－	穴24(土師・須恵・中土・砥石) 溝4(須恵・土師・中土・漆器)
T22	15	1.0(Ⅲ層)	縄土？・土師	珠洲	土師	－	－		穴1・溝1
T23	15	1.0(Ⅲ層)	中土・瀬美	墳土・土師		－	－		穴4
T24	50	1.8(Ⅳ層)	縄土・土師・須恵・中土・珠洲	土師		－	－		穴4・溝2
T25	50	1.0(Ⅳ層)	墳土・土師・須恵・中土・珠洲・越瀬	土師	縄土・墳土	－	－		穴20・溝2
T26	40	0.4(Ⅲ層)	土師・須恵・珠洲・青磁	－	縄土・土師・須恵	－	－	－	穴2
T27	35	0.6(Ⅲ層)	土師・中土・珠洲	－		－	－	－	－
T28	10	0.6(Ⅲ層)				－	－	－	穴3
T29	15	1.0(Ⅲ層)	中土・珠洲			－	－	－	－
T30	25	0.8(Ⅳ層)	土師・珠洲・伊万里	土師	縄土		－	－	穴1？(縄土)・溝1(中土)
T31	25	0.5(Ⅲ層)	珠洲			－	－	－	谷(須恵・土師・珠洲・伊万里)・穴2
T32	15	0.3(Ⅲ層)		－	縄土	－	－	－	溝1(縄土)・穴1(中土)

第8表　中谷内遺跡トレンチ一覧



第16図　中谷内遺跡トレンチ位置図（1）（1：1,000）



第17図　中谷内遺跡トレンチ位置図（2）（1：1,000）

第18図　中谷内遺跡トレンチ位置図（3）（1：1,000）

(4)　出土遺物（第19図、図版14）

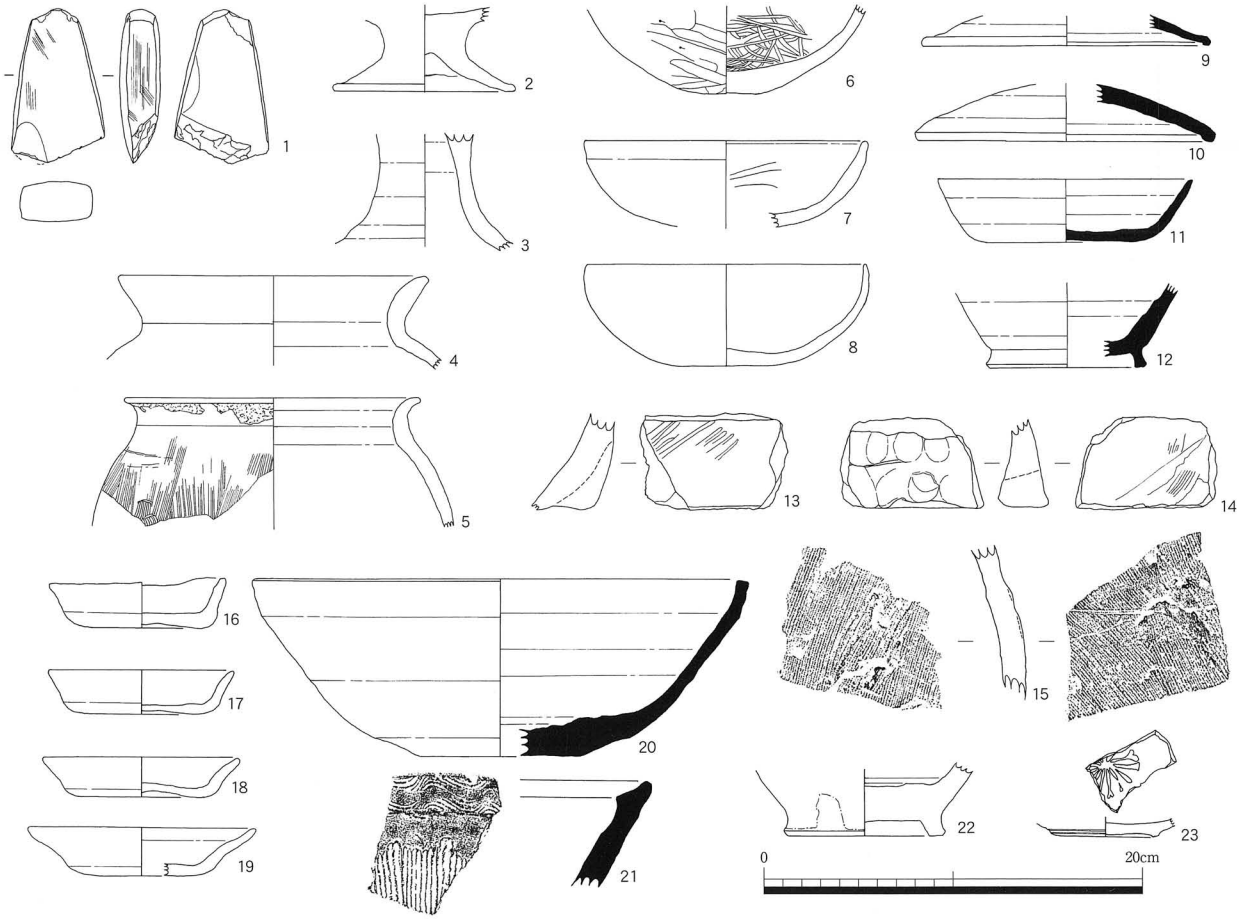
遺物は、縄文土器、土師器（古墳時代）、土師器（古代）・須恵器、中世土師器・珠洲・白磁・瀬戸美濃・信楽、越中瀬戸・伊万里・唐津、漆器、砥石・磨製石斧が出土した。なお、平成７年度に氷見市教育委員会が行った分布調査では土製羽口・鉄滓も出土している。

１は磨製石斧である。２～８は古墳時代の土師器である。２・３は高坏の脚部である。４・５は甕で「く」の字状口縁を呈する。６は壺の体部で、外面ヘラケズリ、内面ミガキを施す。７・８は椀である。７は内面にミガキを施す。９～12は須恵器である。９･10は坏蓋である。11は坏で底部はヘラキリである。12は壺の底部である。13～15は置き竈である。14は底部で外面にハケメ、内面には成形のための指頭圧痕が残る。16～19は中世土師器皿である。口縁部には横ナデを施し、底部外面は無調整である。13世紀～14世紀前半頃のものである。20・21は珠洲擂鉢である。22は中国製白磁の底部である。削り出し高台で、内面及び外面の高台外側まで釉がかかる。23は瀬戸皿で、見込みに印花文を施し、底部外面には輪ドチ痕が残る。16世紀のものである。

(5)　調査の結果（第16～18図）

北側の丘陵部（Ｔ１～４・33～40）では、中世の遺構面を検出した。平野部では、標高の高い北西部分（Ｔ８～15）に３面の遺構面の存在が推定される。第１遺構面は古代・中世、第２遺構面は古墳時代・古代、第３遺構面は古墳時代である。北側と中央部分（Ｔ５～７・16～21）には２面の遺構面の存在が推定される。第１面は古代・中世、第２面は古墳時代・古代である。標高の低い南東部分（T22～27）には２面の遺構面が推定される。第１面は古代・中世、第２面は縄文時代である。南側の丘陵裾部（T28～31）では、第１遺構面で中世、第２遺構面で縄文時代の遺構が検出された。

本調査対象面積は、42,870㎡で、そのうち遺構面が１面の範囲は7,290㎡、２面の範囲は23,270㎡、３面の範囲は10,920㎡であり、延べ面積は86,590㎡である。　（越前慎子）



第19図　中谷内遺跡出土遺物（１：４）　T5（18）　T12（1）　T13（2・4）　T18（3・5-7・9・14・15・21）
T19（10）　T20（11・19）　T21（17）　T23（20）　T24（23）　T25（8）　T26（13・22）　T29（16）　T40（12）

8　中尾横穴墓群

(1)　調査対象地（図版４）

中尾横穴墓群とされていた調査対象地は、南部山地（早借山地）に連なる荒館丘陵の一部で、中尾山の字名をもつ小丘陵の斜面である。現況は山林である。標高は、最も高いＴ６・７で約21～23m、最も低いＴ１で約11mを測る。

(2)　調査の方法（第20図）

幅約１～2.6m・長さ約７～30mのトレンチを北側斜面に２段２箇所と西側斜面に３段７箇所設けて地山まで人力による掘削を行った。東側斜面は崩落していたため、トレンチは設定しなかった。調査対象面積は4,010㎡、調査面積は252㎡である。

(3)　基本層序

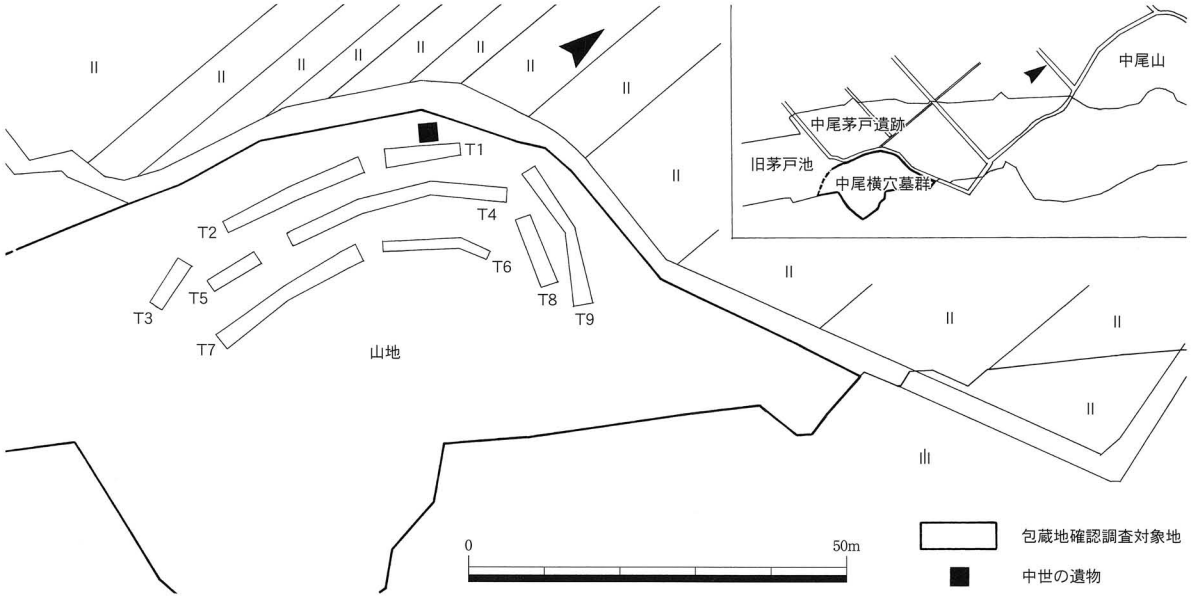
Ⅰ　層	表土	黒褐色シルト質ローム
Ⅱ　層	地山	にぶい黄褐色ローム
Ⅲ　層	地山	灰黄褐色泥岩

(4)　調査の状況（第９表、第20図、図版15）

遺物は、最も低い位置に設けたＴ１で、珠洲の破片が３点出土したものの、遺構はいずれのトレンチからも検出されなかった。

(5)　調査の結果（第20図）

今回調査を行った範囲では、遺跡は確認されなかった。　　（越前慎子）



第20図　中尾横穴墓群トレンチ位置図（１：1,000）

トレンチ番号	全長(m)	堀削深度(m)	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	10	1.7	珠洲			
Ｔ２	20	1.4				
Ｔ３	7	1.6				
Ｔ４	30	1.5				
Ｔ５	7	1.4				
Ｔ６	14	0.9				
Ｔ７	22	1.6				
Ｔ８	10	1.8				
Ｔ９	20	1.7				

第９表　中尾横穴墓群トレンチ一覧

9　中尾茅戸遺跡（なかおかやど）

(1)　調査対象地（図版４）

中尾茅戸遺跡は、上庄川支流の紅谷川上流右岸、千久里山から南に延びる小丘陵や中尾山に挟まれた谷奥に立地する。今回の調査対象地は、丘陵裾に位置する茅戸池跡地にあたり、北側には、平成14年度に実施された発掘調査で、古墳時代の集落跡が確認された中尾茅戸遺跡Ａ地区が隣接することから、遺跡範囲の拡がる可能性が想定されていた。現況は荒蕪地である。標高は現況で約11m、北側の谷平野からは一段高くなっており、比高差は約４ｍを測る。

(2)　調査の方法（第21図）

幅約1.8m・長さ約50～60mのトレンチを２箇所設定し、重機により掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は6,500㎡、調査面積は180㎡である。

(3)　基本層序

Ⅰ　層	旧茅戸池埋土	廃土（約165～350㎝）
Ⅱａ層		灰色粘土など（約35～55㎝）
Ⅱｂ層		オリーブ灰色粘土（約25～50㎝）
Ⅲ　層	地山	オリーブ灰色粘土

※　下層確認のため一部で深掘りを行い、現況面より４～５ｍ掘削してみたところ、Ｔ２ではⅡｂ層とⅢ層の間にⅡｃ層（オリーブ灰色粘土）、Ⅱｄ層（暗オリーブ灰色粘土）を確認した。

(4)　調査の状況（第10表、第21図、図版15）

調査対象地は、旧茅戸池の埋め立てに伴う廃土（Ⅰ層）が、丘陵側で約1.7m、旧茅戸池中央付近では約3.5mと厚く堆積している。調査は廃土を取り除かずに、そのまま現地表面から掘削しているため、地山（Ⅲ層）は部分的に４～５ｍ深掘りして確認したにすぎず、遺構を検出することはできなかった。遺物は、Ｔ１のⅡａ層中より土師器片１点を検出しているが、摩滅した小破片のため詳細な帰属時期などは不明である。なお、Ｔ２で検出されたⅡｃ層は中尾茅戸遺跡Ａ地区で確認された古墳時代～近世遺物包含層、Ⅱｄ層は古墳時代遺物包含層に相応するものと思われるが、今回の調査では遺物を検出することはできなかった。

(5)　出土遺物

土師器片１点を検出しているが、小破片のうえ摩滅が激しいため図化できなかった。

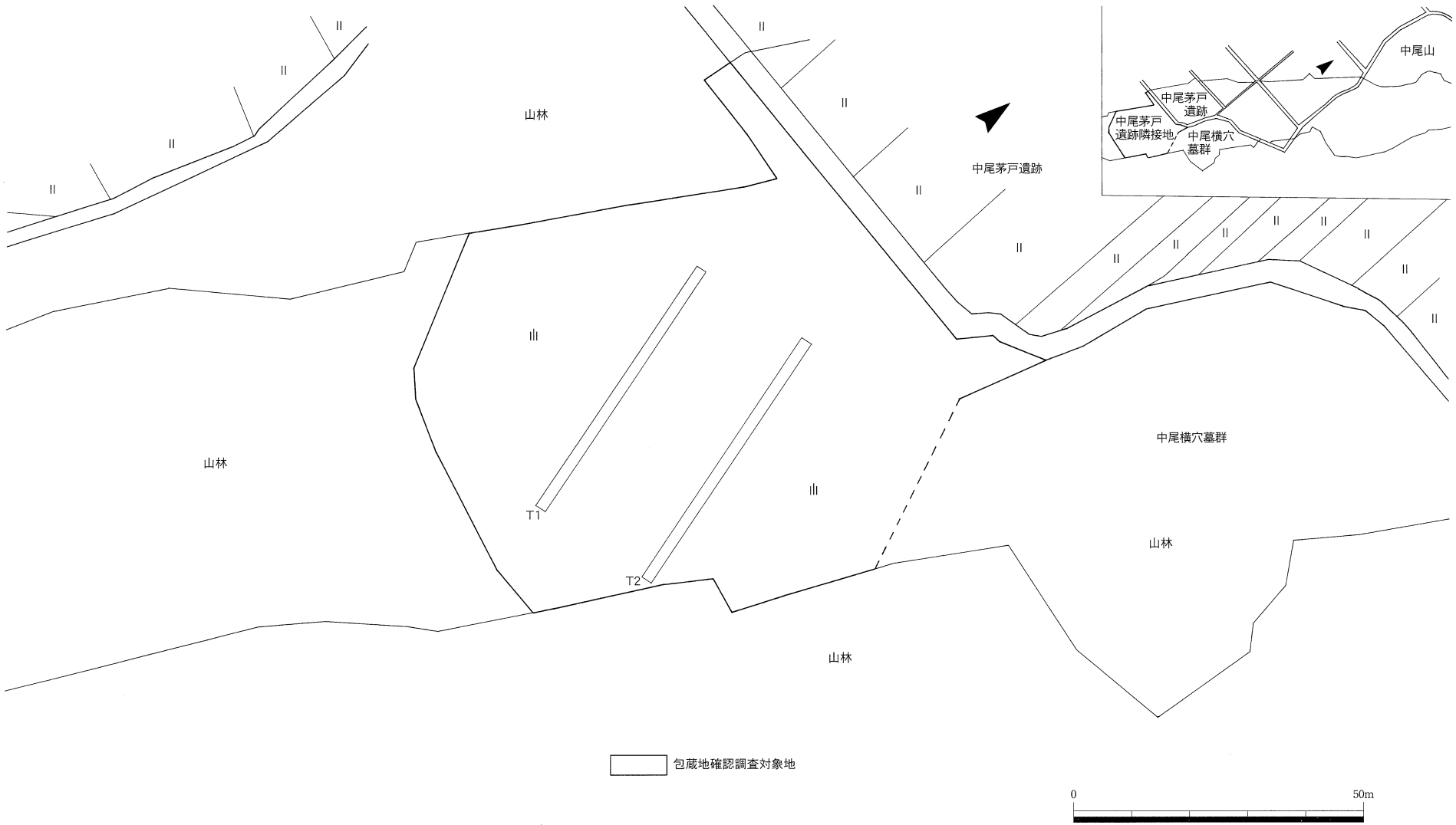
(6)　調査の結果（第21図）

調査対象地は、北側に接する谷平野で検出された古墳時代の集落遺跡との関連が想定されていたが、今回の調査では、遺構及び遺物を検出することはできず、中尾茅戸遺跡の遺跡範囲の拡張などを確認することはできなかった。

（長瀬　出）

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	Ⅰ層	Ⅱａ層	Ⅱｂ層	Ⅲ層	遺構
Ｔ１	50	1.3		土師			
Ｔ２	50	1.2					

第10表　中尾茅戸遺跡トレンチ一覧



第21図　中尾茅戸遺跡隣接地(茅戸池跡地)トレンチ位置図（1：1,000）

Ⅳ　自然科学分析

NEJ-17埋蔵文化財包蔵地出土貝類同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ＮＥＪ-17埋蔵文化財包蔵地は、仏生寺川中流部に左岸から合流する支流によって、深原から矢田部にかけて形成している支谷内の谷底平野に位置する。本遺跡では、標高約2.8m付近から貝化石の集中層が検出されている。この貝層は、標高および周辺地形から縄文海進時に形成したと考えられている。そこで、今回は、貝の種類を調べて当時の環境を検討するために、貝類同定を実施する。

1．試料

試料は、５トレンチ深掘から採取された貝類である。この中には、砂が付着した貝類が多数混入している。

2．分析方法

貝類に付着している砂分を水洗して除去し、乾燥させる。乾燥後、試料を肉眼およびルーペにより種と部位の同定を行う。なお、同定は金子浩昌先生（元早稲田大学）の協力を得た。

3．結果

出土した貝類の分類群一覧を第11表に、同定結果を第12表に示す。以下、検出された種類ごとに記載する。検出された種類は、５目９科11種である。なお、分布・生息域に関しては、奥谷ほか(2000) を参考とする。

・イボウミニナ

開放的な内湾の潮間帯中部～下部にかけて生育する種類である。成貝27個体、幼貝６個体検出される。最大殻高33.42mm。

・カワアイ

内湾の潮間帯・泥地にかけて生育する種類である。成貝37個体、幼貝１個体検出される。最大殻高27.61mm。

・ムギガイ

北海道南部以南の潮間帯～潮下帯岩礁にかけて生育する種類である。２個体検出される。殻高10.14mm、10.44mmである。

軟体動物門　Phylum　Mollusca
腹足綱　Class　Gastropoda
前鰓亜綱　Subclass　Prosobranchia
盤足目　Order　Discopoda
ウミニナ科　Family　Batillariidae
イボウミニナ　*Batillaria zonalis*
フトヘナタリ科　Family　Potamididae
カワアイ　*Cerithidea*（*Cerithideopsilla*）*djadjariensis*
新腹足目　Order　Neogastropoda
フトコロガイ科　Columbellidae
ムギガイ　*Mitrella bicincta*
二枚貝綱　Class　Bivalvia
翼形亜綱　Subclass　Pteriomophia
フネガイ目　Order　Arcoida
フネガイ科　Family　Arcidae
サルボウガイ　*Scapharca kagoshimensis*
カキ目　Order　Ostreoida
ナミマガシワ科　Family　Anomiidae
ナミマガシワ　*Anomiidae chinensis*
異歯亜綱　Order　Heterodonta
マルスダレガイ目　Order　Veneroida
ハナシガイ科　Family　Thyasiridae
マルハナシガイ　*Leptaxinus ferruginosus*
ニッコウガイ科　Family　Tellinidae
イチョウシラトリ　*Merisca capsoides*
マルスダレガイ科　Family　Veneridae
シラオガイ　*Circe*（*Redicirce*）*sulcata*
アサリ　*Ruditapes philippinarum*
ウスハマグリ／シロウスハマグリ *Pitarjaponikus / P . noguchii*
シジミ科　Family　Corbiculidae
ヤマトシジミ　*Corbicula japonica*

第11表　NEJ－17検出貝類の分類群一覧

地点	採取日	分類群	部位	数量	計測値(mm)	分　布	生息域
5トレンチ深掘	2002.07.17	イボウミニナ(成貝)	本体	27	殻高：10.0±～33.42	北海道南部以南のインド・西太平洋域	やや開放的な内湾の潮間帯中部～下部，泥底
		(幼貝)	本体	6			
		カワアイ　(成貝)	本体	37	殻高：4.0～27.61	房総半島・山口県北部以南，インド・西太平洋域	内湾の潮間帯，泥地
		(幼貝)	本体	1			
		ムギガイ	本体	2	殻高：10.14，10.44	北海道南部以南	潮間帯～潮下帯岩礁
		サルボウガイ	左殻	27	殻長：6.20～56.31	東京湾から有明海，沿海州南部～韓国，黄海，南シナ海	潮下帯上部～水深20mの砂泥底
			右殻	24			
			破片	6			
		ナミマガシワ	左殻	1		北海道南部以南の西太平洋	水深20m以浅の岩礫底
		マルハナシガイ	左殻	1		相模湾～九州，日本海西部	水深10～50mの砂泥底
		イチョウシラトリ	右殻	破損1	殻長：4.73～21.11	北海道南西部以南，東南アジア，インド洋	内湾湾奥部や河口部の潮間帯中下部泥底
			不明	破片3			
		シラオガイ	左殻	9	殻長：22.41～44.18	房総半島以南，日本海西部，インド・西太平洋	潮間帯下部～水深20mの砂底
			右殻	16			
		アサリ	右殻	2		北海道～九州，朝鮮半島，中国大陸沿岸	潮間帯中部～水深10mの砂礫泥底
		ウスハマグリ／シロウスハマグリ	左殻	1	殻長：18.20	ウスハマグリ：房総半島～九州 シロウスハマグリ：相模湾～九州，日本海西部	ウスハマグリ：水深５～50mの細砂底，シロウスハマグリ：10～100m
		ヤマトシジミ	左殻	1	殻長：26.79	本州～九州	河口汽水域の砂底
		不明	破片	多数			

第12表　NEJ－17貝類同定結果

・サルボウガイ

東京湾から有明海、沿海州南部～韓国、黄海、南シナ海の潮下帯上部～水深20mの砂泥底に生育する種類である。左殻27、右殻24、左右不明破片６検出され、左殻と右殻がほぼ同数検出される。殻長6.20～56.31を測り、成貝だけでなく、若貝もみられる。

・ナミマガシワ

北海道南部以南の西太平洋の水深20m以浅の岩礫底に生育する種類である。左殻１のみ検出される。

・マルハナシガイ

相模湾～九州や日本海西部の水深10～50mの砂泥底に生育する種類である。左殻１のみ検出される。

・イチョウシラトリ

北海道南西部以南、東南アジア、インド洋の内湾奥部や河口部の潮間帯中下部泥底に生育する種類である。右殻１、左右不明破片３検出される。右殻は、一部破損している。殻長は、4.73～21.11mmを測る。

・シラオガイ

房総半島以南と日本海西部、インド・西太平洋の潮間帯下部～水深20mの砂底に生育する種類である。左殻９、右殻16検出される。殻長は、22.41～44.18mmを測る。

・アサリ

北海道～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸の潮間帯中部～水深10mの砂礫泥底に生育する種類である。右殻２検出される程度である。

・ウスハマグリ／シロウスハマグリ

ウスハマグリが房総半島～九州の水深５～50mの細砂底に、シロウスハマグリが相模湾～九州や日本海西部の10～100mに生育する種類である。左殻１検出される。殻長は、18.20mmを測る。

・ヤマトシジミ

本州～九州の河口汽水域の砂底に生育する種類である。左殻１検出される。殻長は、26.79mm。

4．考察

検出された貝の中で、マルハナシガイ、ウスハマグリなど少数の深度の深い棲息域の貝種を除くと、他の種類はいずれも内湾の浅海砂泥底を生息域にする。これら内湾砂泥底に生息する種類の大部分は、当時の氷見湾奥に棲息していた貝種とみてよいであろう。特にサルボウガイが多産していることは、本種がこのような環境下に棲息する代表的な種類であり、水域環境の様相を良く示していると言える。

以上のことから、本貝層が自然に形成したものと仮定すると、浅い海域が存在していたことが伺え、当時遺跡周辺は内湾のような環境であったと推測される。今後、放射性炭素年代測定による本貝層の形成年代の把握、珪藻分析による堆積環境変遷の検討、さらに本貝層と同時異層の分布状況などを把握することで、本遺跡周辺のより詳細な環境復元を行うことが可能になると考える。（植木　真吾）

Ⅴ　小　括

平成14年度に行った４箇所の埋蔵文化財包蔵地と５遺跡の調査の結果は、次のとおりである。

１．ＮＥＪ－15埋蔵文化財包蔵地では、第１遺構面で中世、第２遺構面で古墳時代の集落を確認し、惣領野際遺跡とした。本調査対象面積は14,200㎡で、２面あるため延べ面積は28,400㎡である。今後の調査によって、周辺の古墳群との関係や中世における集落の様相が解明されることを期待したい。

２．ＮＥＪ－16埋蔵文化財包蔵地では、第１遺構面で古代・中世の集落、第２遺構面で弥生終末期～古墳時代前期・縄文の集落を確認し、惣領浦之前遺跡とした。本調査対象面積は9,900㎡で、２面あるため延べ面積は19,800㎡である。隣接する惣領野際遺跡と合わせて検討することにより、仏生寺川流域の丘陵先端から平野部における開発過程の一端が解明されるであろう。

３．ＮＥＪ－17埋蔵文化財包蔵地では、今回の調査範囲内に遺跡は確認されなかった。

４．ＮＥＪ－18埋蔵文化財包蔵地では、今回の調査範囲内に遺跡は確認されなかった。

５．正保寺遺跡では、調査対象地の南西半分において遺跡の広がりを確認した。丘陵斜面では２箇所の平坦面を中心に古代の遺跡を確認し、丘陵裾で中世の遺構面を検出した。上位平坦面の南端部では基壇状の盛土とピット１基を確認した。地名の由来と推測される社寺との関連も考えられるが、詳細の解明は今後の調査を待ちたい。本調査対象面積は8,600㎡で、丘陵斜面（古代）、丘陵裾（中世）とも単層である。

６．粟原Ａ遺跡では、丘陵斜面から裾にかけて遺跡の広がりを確認した。古代単層で、本調査対象面積は3,100㎡である。なお、今回の調査対象地から除外された市道より南側の谷平野部にも遺跡範囲が広がる可能性があり、今後調査などによる確認が必要である。また、近隣の粟原Ｂ遺跡との関連も今後の調査課題とされる。

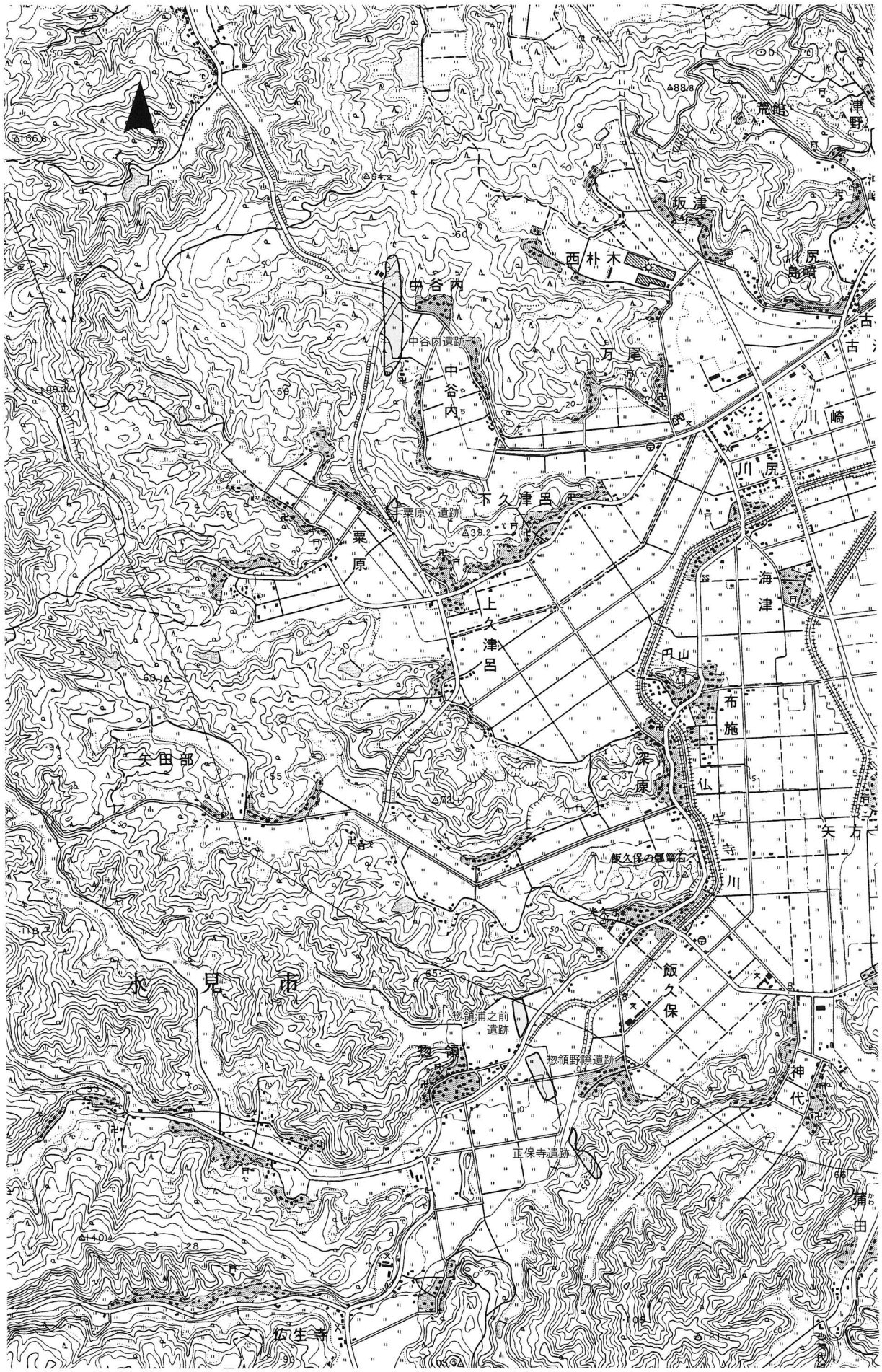
７．中谷内遺跡では、丘陵から平野部にかけて遺跡の広がりを確認した。北側丘陵斜面から丘陵裾にかけては中世の遺構面を確認した。平野部では古墳時代・古代・中世にわたる２～３面の遺構面を確認した。南側の丘陵裾では縄文・中世の２面の遺構面を確認した。本調査対象面積は42,870㎡で、うち遺構面が１面の範囲は7,290㎡、２面の範囲は23,270㎡、３面の範囲は10,920㎡で、延べ面積は86,590㎡である。今後の調査においては、平野部では縄文から中世に至る集落遺跡の展開を追うことが可能と推測され、丘陵斜面から裾部にかけては、立地条件から中世山城等特殊な性格をもつ遺構が存在することも考えられる。

８．中尾横穴墓群と推定されていた調査対象地では、今回の調査範囲内に遺跡は確認されなかった。

９．中尾茅戸遺跡に隣接する茅戸池跡地は、当初中尾茅戸遺跡の広がりが予想されたが、今回調査した範囲では遺跡の広がりは確認されなかった。

10．ＮＥＪ－17埋蔵文化財包蔵地では、泥岩層まで深掘りした際に泥岩層直上にあった貝層から採集した貝類の同定を行った。その結果、少数の深度の深い生息域の貝類を除いては、内湾の浅海砂泥底を生息域とする貝類に同定され、このことから当時遺跡付近は内湾のような環境であったと推定された。検出した泥岩層は中新世後期から鮮新世中期（600～300万年前）に堆積してできた阿尾泥岩層と考えられ、同定試料を採取した貝層は縄文海進期に形成された層と推定される。今後、当貝層採集試料の放射性炭素年代測定等により、周辺のより詳細な環境復元が可能になると考えられる。

（越前慎子）



第22図　今回の調査により新たに確認された遺跡の位置（1：25,000）

引用・参考文献

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会　1988『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』

上田秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

上原真人　1994「日常生活の道具　入れもの」『季刊考古学』第47号

大川　清他 1996『日本土器事典』雄山閣

奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・斎藤　寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷巌・速水　格・堀　成夫・松隈明彦（2000）『日本近海産貝類図鑑』. 奥谷喬司編，1173p.，東海大学出版会.

小田木治太郎　1989「北陸東部における古墳開始期の土器様相」『北陸の考古学Ⅱ』石川考古学研究会

川端　誠　1996「北陸地方の木製食器の概要」『第39回埋蔵文化財研究集会　古代の木製食器』

久々忠義　1986「富山県における「月影式」土器について」『シンポジウム「月影式」土器について』報告編、石川考古学研究会

小島清文　1962『氷見市地名考』氷見報知新聞社　桶元吉郎

国土地理院 1995『１：25,000　地形図　飯久保』

1996『１：50,000　地形図　氷見』

1998『１：25,000　地形図　氷見』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　1996『梅原護摩堂遺跡調査報告（遺物編）』

寒川　旭　1992『地震考古学－遺跡が語る地震の歴史－』中公新書

珠洲市立珠洲焼資料館 1989『珠洲の名陶』

瀬戸市史編纂委員会　1993『瀬戸市史Ⅳ』

高橋浩二　2000「古墳出現期における越中の土器様相」『庄内式土器研究ＸＸⅡ』庄内式土器研究会

竹内理三他 1979『角川日本地名辞典　16　富山県』角川書店

田島明人　1986「Ⅳ考察－漆町遺跡出土土器の編年的考察－」『漆町遺跡Ⅰ』

石川県埋蔵文化財センター

上野　章　1972『6.弥生時代　附　古式土師器　富山県史　考古編』富山県

富山県埋蔵文化財センター　2000『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』平成12年加筆訂正

富山県立氷見高等学校歴史クラブ 1964『富山県氷見地方考古学遺跡と遺物』

富山大学人文学部考古学研究室　1989『越中上末窯』

中葉博文　1980『氷見市地名の研究』日本地名研究所

奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録　近畿原始編』

伯水正英　1963『上庄村史』上庄村史編纂委員会

氷見市教育委員会　1998『朝日山城跡－七軒町地区急傾斜地崩壊防止工事に先立つ発掘調査－』

2001『新保南遺跡』

2001『柳田布尾山古墳　第3次調査の成果』

氷見市教育委員会・富山大学考古学研究室　1995『氷見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ　1994年度』

1996『氷見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ　1995年度』

氷見市編さん委員会　2002『氷見市史７　資料編五　考古』

1999『氷見市史９　資料編七　自然環境』

森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』№２　日本貿易陶磁研究会

吉岡康暢　1991『日本海域の土器・陶磁［古代編］』六興出版

1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

（1953年11月撮影）

（1952年11月撮影）

図版１　ＮＥＪ-15・16・17・18・正保寺遺跡航空写真

図版２　ＮＥＪ-15・16・17・18・正保寺遺跡航空写真

（2000年5月撮影）

（1952年11月撮影）

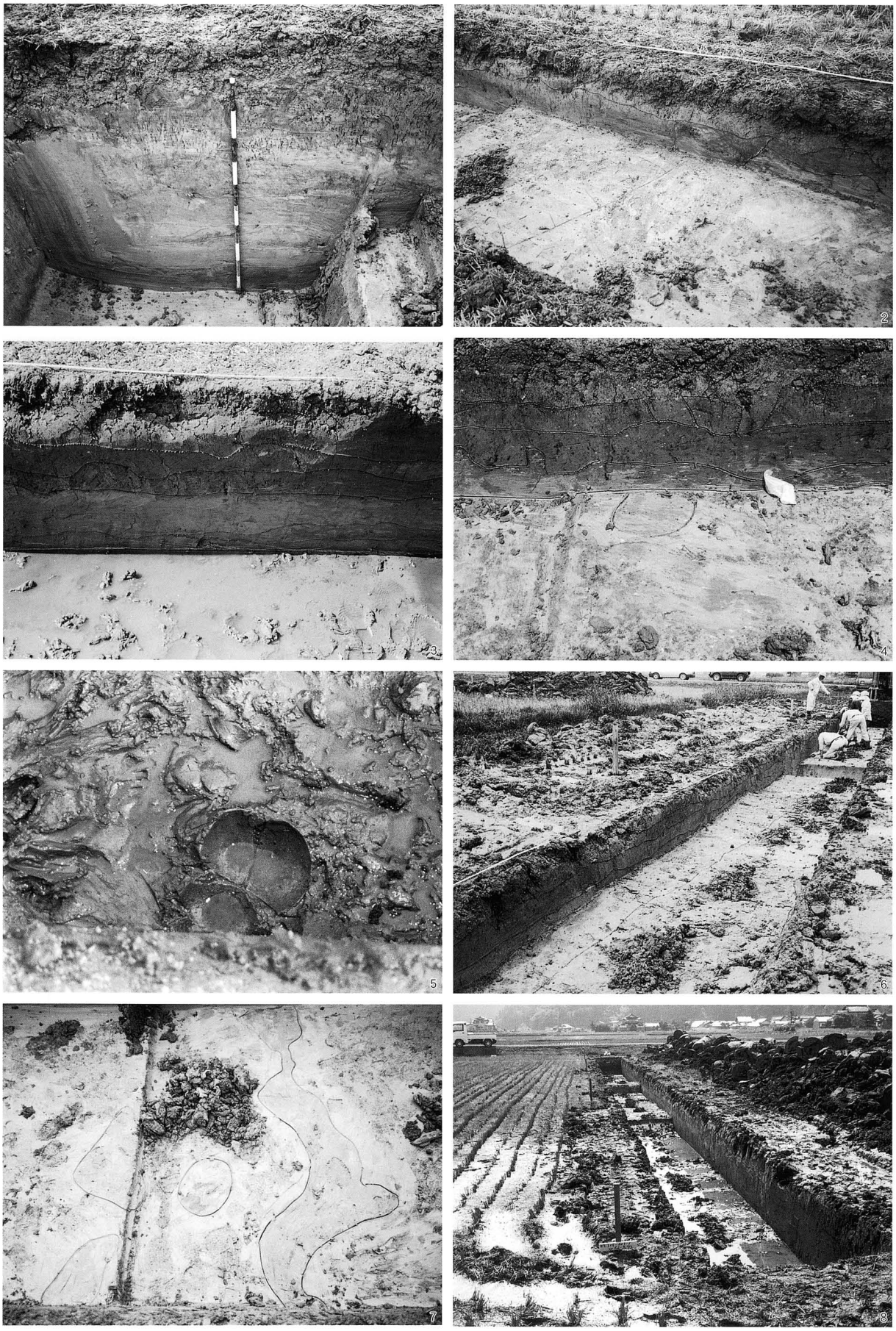
（2000年5月撮影）

図版 3　粟原A遺跡・中谷内遺跡航空写真

（1953年4月撮影）

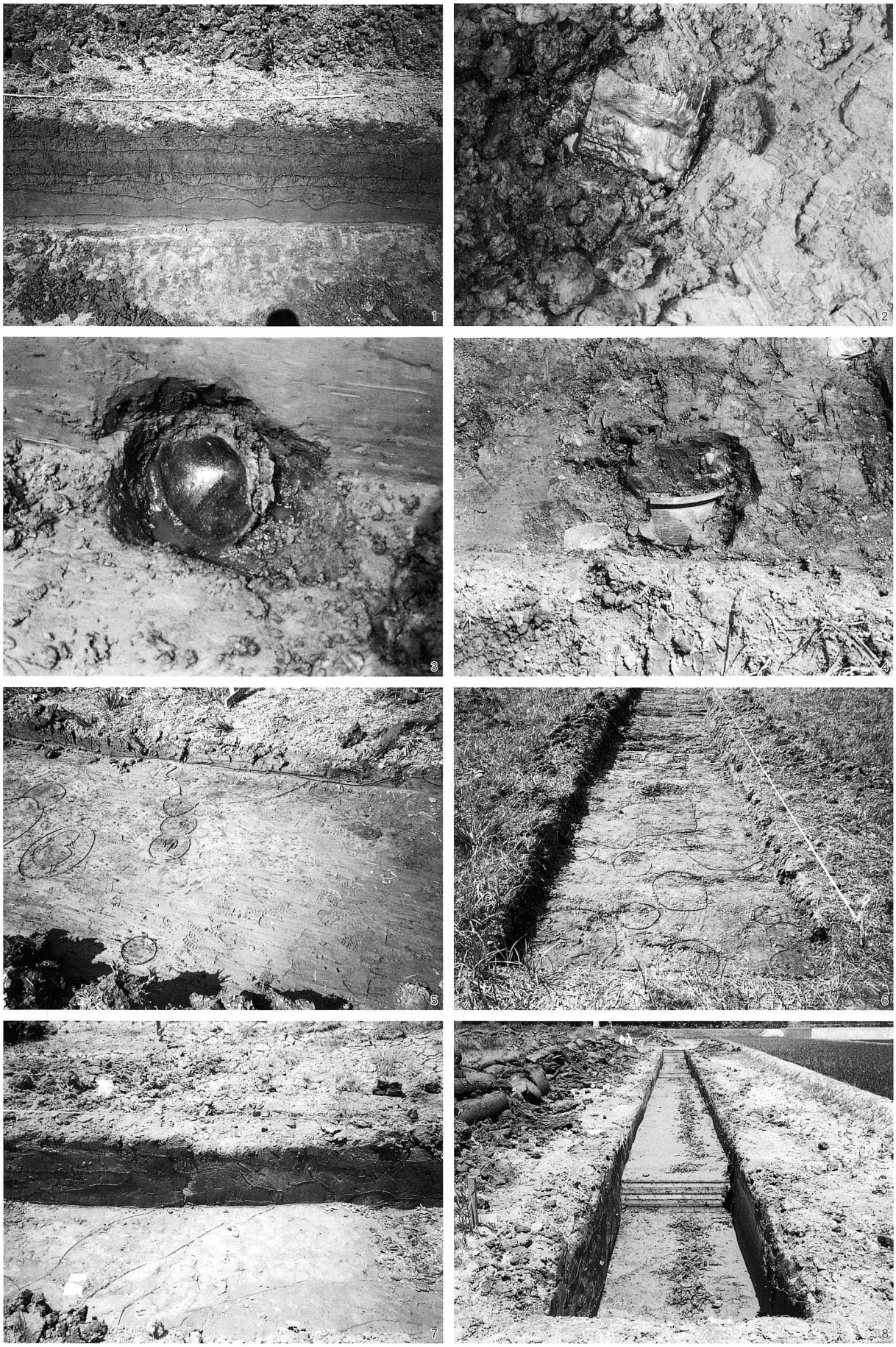
（2000年5月撮影）

図版 4　中尾横穴墓群・中尾茅戸遺跡航空写真

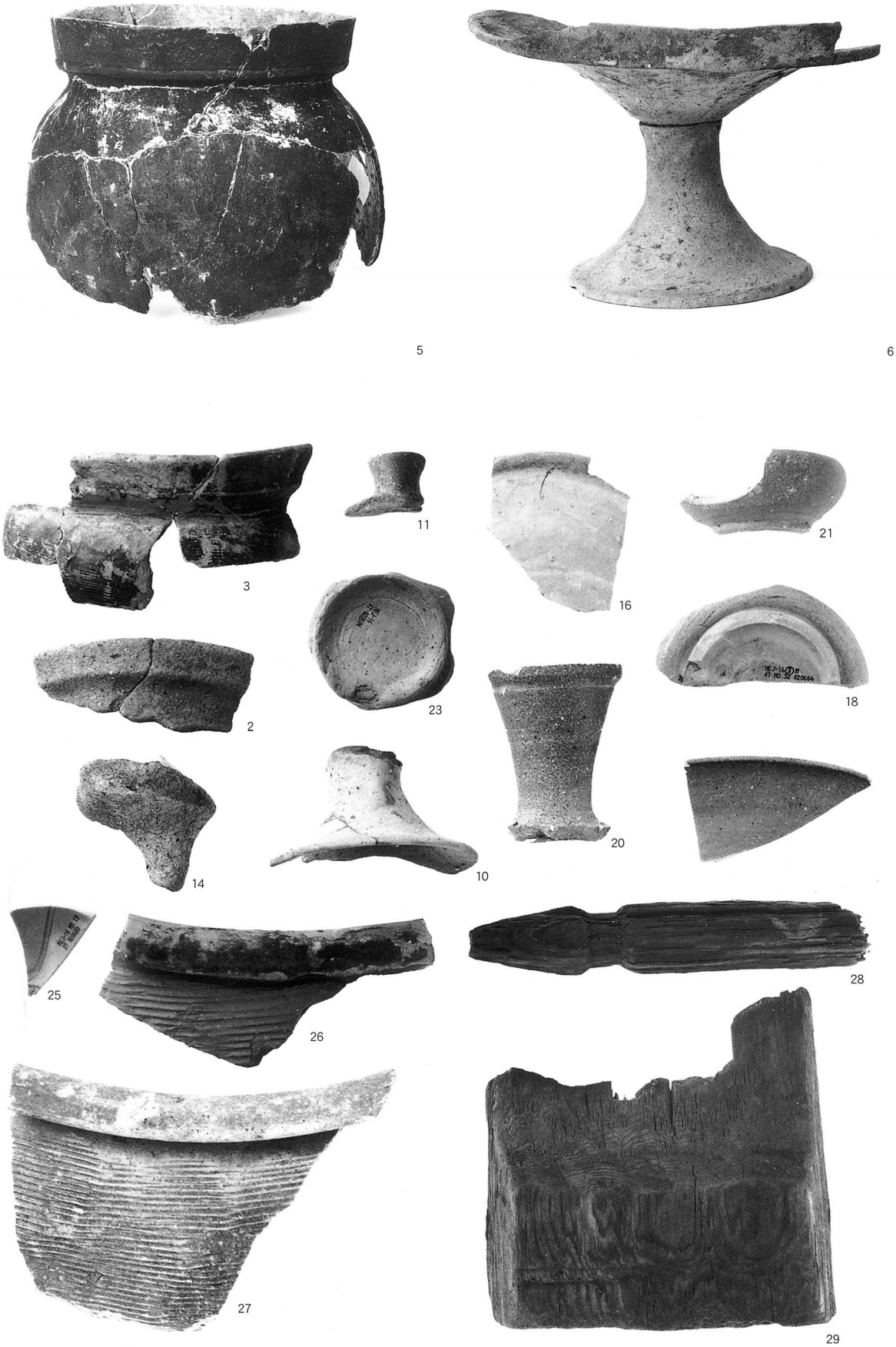


図版5　NEJ-15　1. T1土層　2. T2土層　3. T4土層　4. T9土層　5. T6遺物
6. T7作業風景　7. T10遺構　8. T12全景

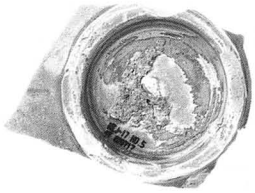
図版６　ＮＥＪ-15出土遺物（写真中の番号は第４図に対応）

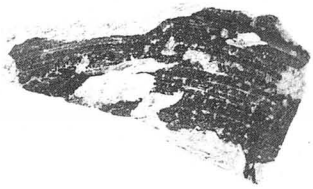


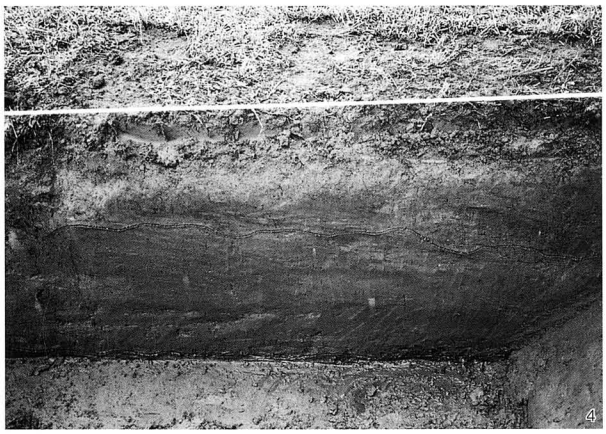
図版7　NEJ-16　1. T2土層　2. T4遺物　3. T4遺物　4. T6遺物　5. T6遺構
6. T8遺構　7. T9土層　8. T10全景

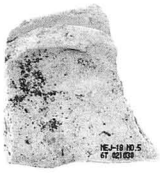


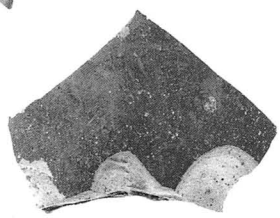
図版８　ＮＥＪ-16出土遺物（写真中の番号は第６図に対応）



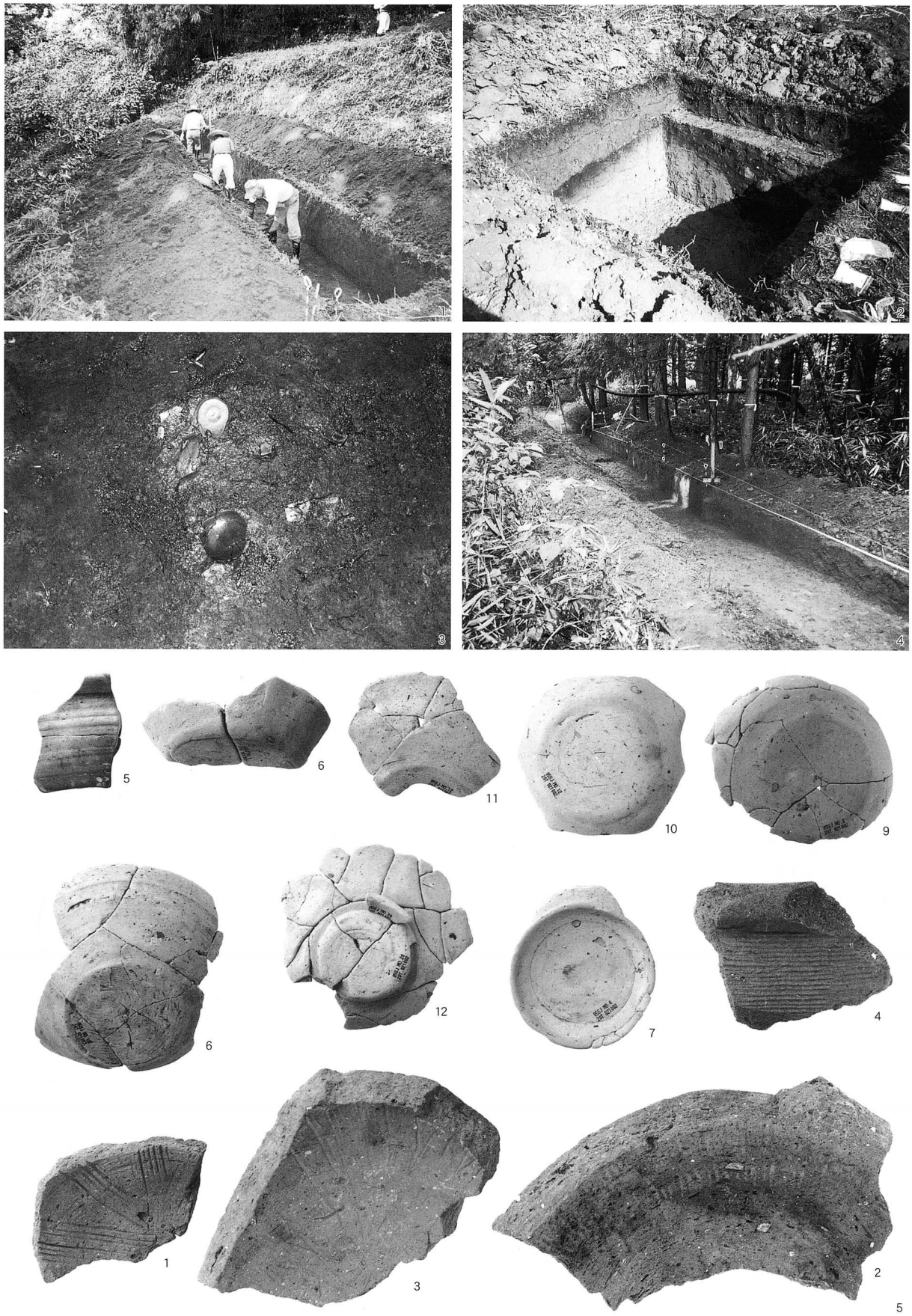




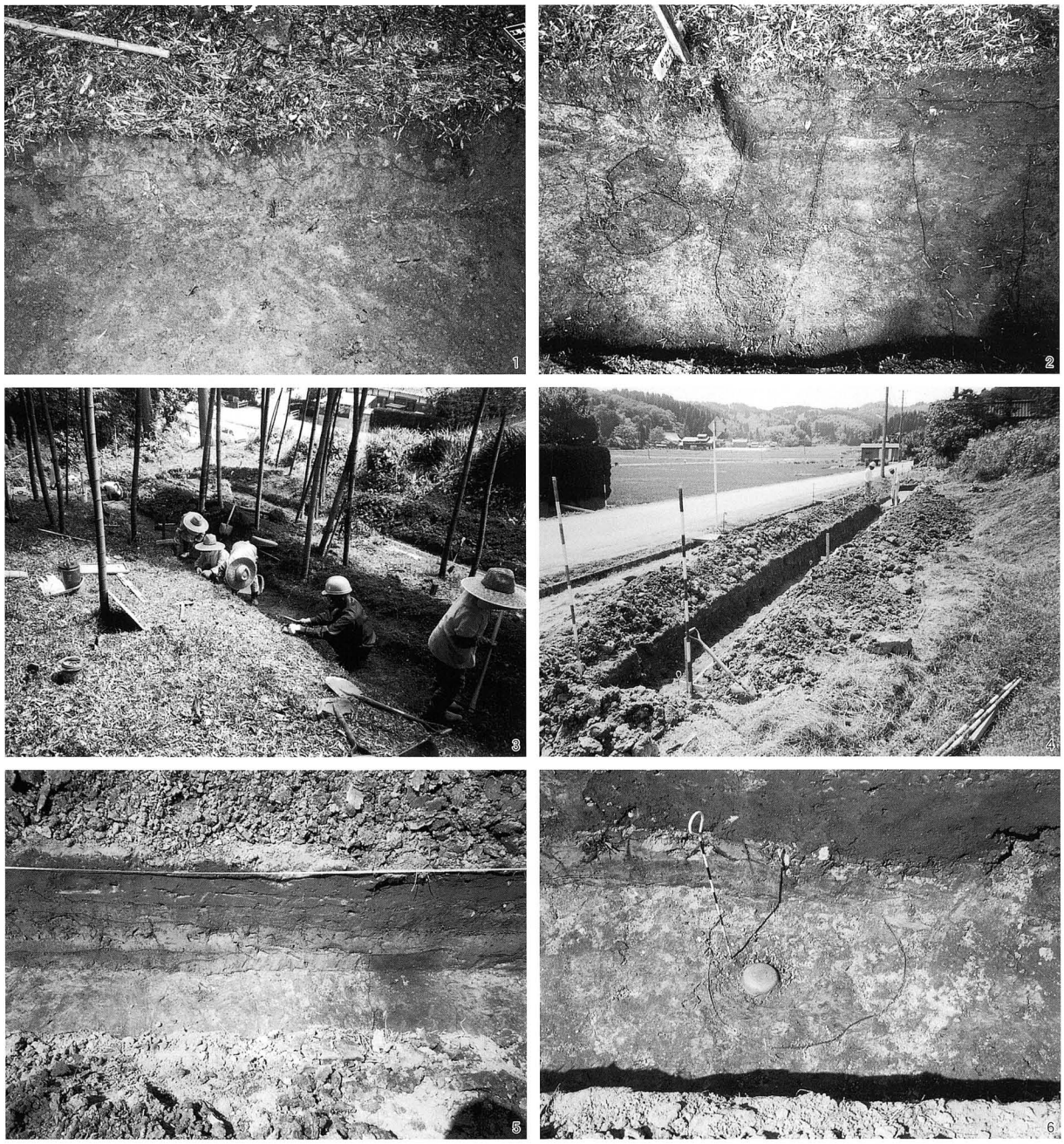




図版 9　**NEJ-17**　1. T2全景　2. T5土層　3. 出土遺物　（写真中の番号は第7図に対応）
NEJ-18　4. T4土層　5. T7作業風景　6. 出土遺物

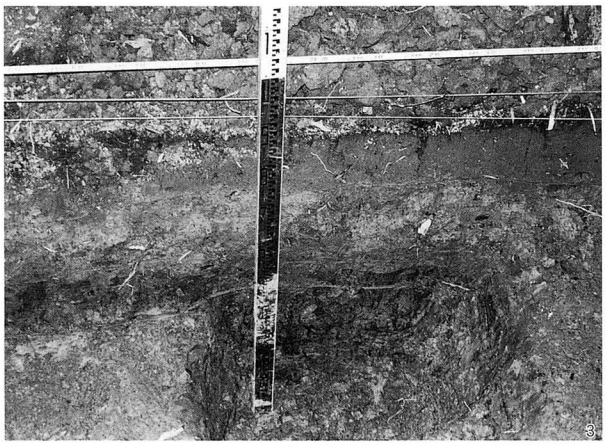


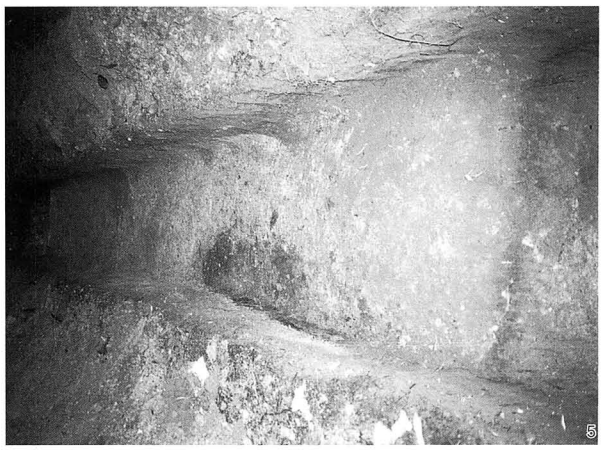
図版10　正保寺遺跡　1．T10作業風景　2．T12全景　3．T20遺物　4．T21全景
5．出土遺物　（写真中の番号は第13図に対応）



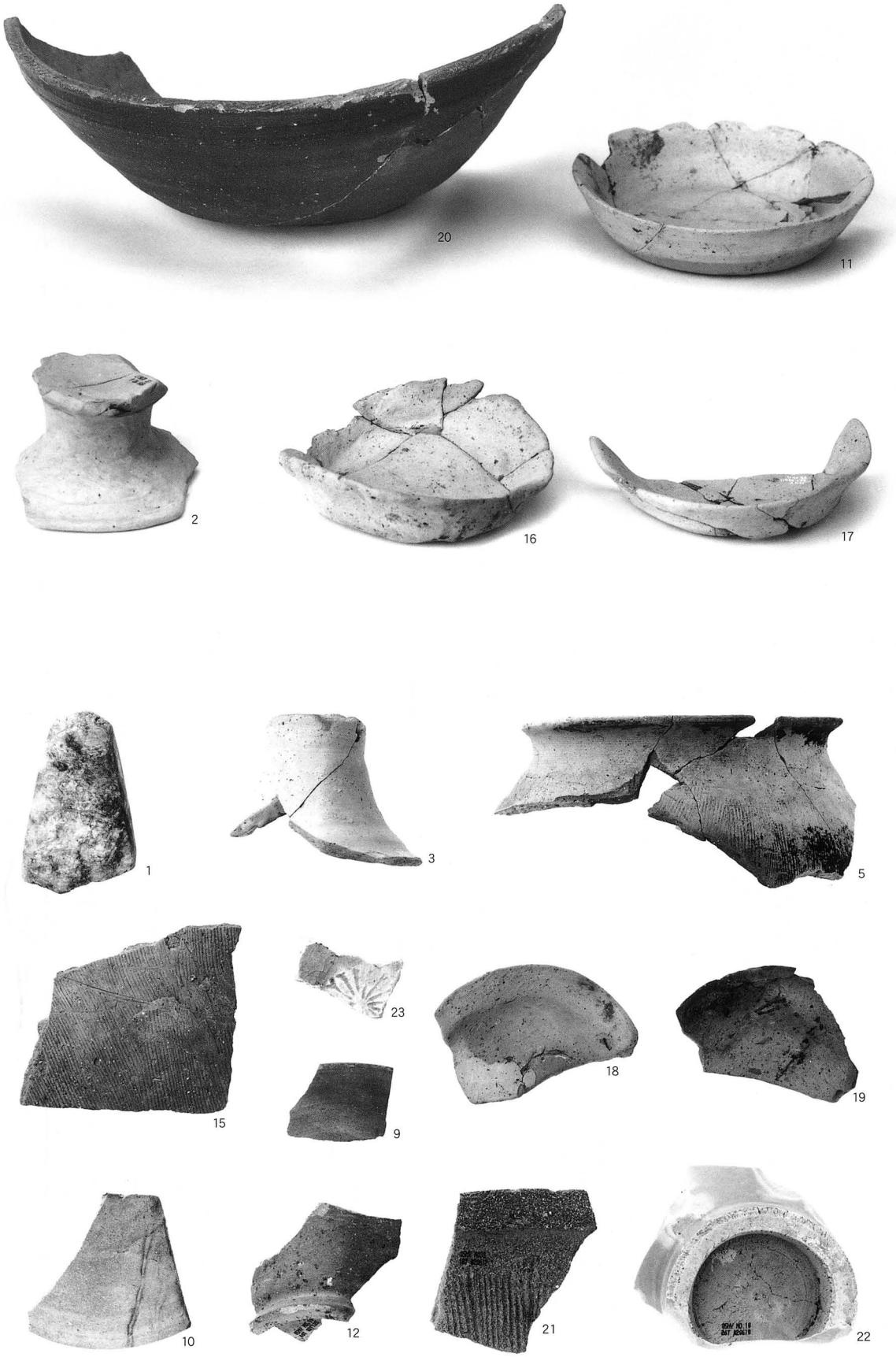
図版11　粟原A遺跡　1. T1土層　2. T2遺構　3. T2作業風景　4. T4全景
5. T4土層　6. T4遺構と遺物　7. 出土遺物　（写真中の番号は第14図に対応）

図版12　中谷内遺跡　1．T2遺構　2．T5土層　3．T8全景　4．T10土層　5．T10遺構
6．T15遺構　7．T16全景　8．T20遺構と遺物





図版13　中谷内遺跡　1. T24土層と遺構　2. T30作業風景　3. T30土層　4. T30遺構
5. T34全景　6. T35遺構　7. T38土層と遺構　8. T40土層



図版14　中谷内遺跡出土遺物（写真中の番号は第19図に対応）